

年報

NO.18

昭和62年度

佐賀県立博物館

佐賀県立美術館

はじめに

このたび、昭和62年度の博物館・美術館の事業概要をとりまとめました。それぞれ発足以来17年目、4年目にあたる年度でしたが、御利用者のお蔭で着実な歩みを続け、入館者は昭和63年度初めには200万人を突破いたしました。

さて、博物館常設展では「佐賀県の歴史と文化」をテーマに佐賀の自然と風土を背景に郷土の人々がどのように生活し、文化を育ててきたかを自然史・考古・歴史・美術・工芸の分野に分けて、原資料を中心に系統的な展示を行いました。また、常設展を3期に分け、肥前忠吉の刀剣を系譜にそって展示するコーナーを設けるなど、展示の画一化を防ぐ試みも行っていました。企画展では第38回全国植樹祭に関連しての「森林と文化展」を開催し、全国からの参観者を集めるとともに、佐賀県の植物や昆虫について天覧をいただきました。外部との連携企画展では「佐賀県児童生徒理科作品展」で自然科学分野での創造性と研究意欲を高める役割を果たし、「よみがえれ佐賀展」は成富兵庫の治水事業、弘道館（藩校）など、テーマにふさわしい楽しい展示でした。

美術館の常設展では近代の美術・工芸の分野で佐賀県が誇る百武兼行・久米桂一郎・岡田三郎助などの絵画、古賀忠雄の彫塑、中里無庵の陶磁器などを中心に現代作家の作品まで幅広く展示しています。なかには、「郷土の日本画家たち」として近代以降の佐賀出身の作家達の作品を一室に展示して好評でした。企画展では「石本秀雄展」を佐賀美術協会・佐賀新聞社の御協力を得て同画伯の画業を紹介いたしました。その他の外部との連携企画展では「第71回二科展」「第70回美術協会展」「人間国宝・中里無庵とその周辺展」「東光会展」「日韓文化交流展」「バルビゾン派をめぐる画家たち展」「佐賀県美術展」「佐賀県高等学校芸術祭」「佐賀県学童美術展」「第1回九州芸術祭展」などの企画が並んで盛況でした。とりわけ「バルビゾン派をめぐる画家たち」は久しぶりに外国の絵画を集めた展覧会で多くの入場者を集めました。

さらに附属の美術館ホール・画廊・研修室そして茶室「清恵庵」の利用も一段と増加しております。

これも佐賀県民をはじめとする御利用者の御理解と温かい御支援によるものと感謝申し上げます。今後は博物館・美術館ともに資料の充実、研究体制の強化、教育普及活動の活発化に努め、展覧会等を充実して親しまれる館運営に努力いたしますので、一層の御指導と御支援をお願いいたします。

昭和63年12月1日

佐賀県立博物館長 出 和 人
佐賀県立美術館長

目 次

佐賀県立博物館

博物館の沿革	5
博物館日誌 昭和62年度	6
規模および施設	6
組織・職員名簿・人事異動	7
博物館歳出予算 昭和62年度	8
事業の実施状況	
1 昭和62年度 博物館常設展	9
2 昭和62年度 博物館新収蔵品展	13
3 昭和62年度 特別企画 森林と文化展	14
4 企画展ならびにその他の展覧会 昭和62年度	36
5 博物館観覧状況調べ 昭和62年度	36
6 普及活動	38
7 資料調査	40
資料の概要—昭和62年度・博物館—	
1 購入資料	41
2 寄贈資料	42
3 寄託資料	44
4 資料の貸出状況	44
5 購入・寄贈図書	
—昭和62年度 博物館・美術館共通—	45
茶室「清恵庵」の管理と運営の概況	46

佐賀県立美術館

美術館の沿革	47
美術館日誌 昭和62年度	47
規模および施設	48
昭和62年度 美術館歳出予算	48
事業の実施状況	
1 昭和62年度 美術館常設展	49
2 昭和62年度 美術館新収蔵品展	50
3 昭和62年度 特別企画 石本秀雄展	51
4 企画展ならびにその他の展覧会 昭和62年度	56
5 美術館観覧状況調べ 昭和62年度	58
6 普及活動	60
7 資料調査	60
8 ホール・画廊・研修室催しもの	60
資料の概要—昭和62年度・美術館—	
1 購入資料	61
2 寄贈資料	61
3 管理換資料	61
4 資料の貸出状況	62
佐賀県立博物館・美術館協議会	63
博物館・美術館職員名簿(昭和63.4.1現在)	64

昭和62年度

佐賀県立博物館

博物館の沿革

昭和26年 4月 1日	佐賀県文化館設置条例制定、佐賀県文化館が設置される。
昭和35年 4月 1日	佐賀県文化館設置条例を博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき佐賀県文化館を博物館として登録する。 昭和36年、新博物館建設の気運が高まり、41年度に調査費計上。 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和43年度に設計を委託し建設計画に着手し、昭和43年度から昭和45年度にわたる継続事業として建設することとなる。
昭和44年 1月21日	佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
昭和45年 3月31日	佐賀県文化館設置条例廃止。
昭和45年 4月 1日	佐賀県立博物館設置条例公布。佐賀県立博物館協議会条例公布。佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
昭和45年 7月 1日	佐賀県立博物館完工。佐賀県立博物館設置条例施行。博物館開設準備事務局廃止。博物館職員の発令、館長以下18名。佐賀県立博物館協議会条例施行。
昭和45年 7月16日	佐賀県立博物館協議会委員を任命。
昭和45年10月14日	佐賀県立博物館開館記念式典挙行。
昭和47年 3月 4日	鉄器減圧樹脂含浸装置を研究室に設置。
昭和48年10月10日	茶室「清恵庵」を、市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。 茶室落成式。
昭和50年 9月20日	古賀忠雄作「岬の男」(ブロンズ) 前庭に据付完成。
昭和51年 9月18日	皇太子殿下、同妃殿下「柿右衛門名品展」ご観覧のためご来館。
昭和51年10月22日	天皇陛下、皇后陛下「若楠国体芸術展」ご観覧のためご来館。
昭和52年12月12日	佐賀藩鑄造鉄製「カノン砲」(復元) 玄関前据付完了。
昭和53年 5月 4日	常陸宮殿下、同妃殿下常設展「佐賀県の歴史と文化展」ご観覧。
昭和53年11月 5日	茶室「清恵庵」開室5周年記念合同茶会開催。出席者約1,500名。
昭和54年 7月19日	入館者総数100万名に達する。
昭和55年 4月23日	古賀忠雄氏遺作 (232点) 遺族より寄贈。
昭和56年 4月17日	山口猛彦作遺作 (34点) 遺族より寄贈。
昭和57年 5月10日	鍋島則子氏より工芸品 (85点) 寄贈。
昭和58年 2月 7日	御厨俊江氏より御厨純一氏の作品 (28点) 寄贈。
昭和61年 3月17日	佐賀植物友の会(須古将宏会長)から植物腊葉(さくようーおしば)18,000点の寄贈。
昭和62年 5月23日	天皇陛下、「森林と文化展」ご観覧のためご来館。

以上のほか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。
ここには点数の特にも多いもののみを記載しました。

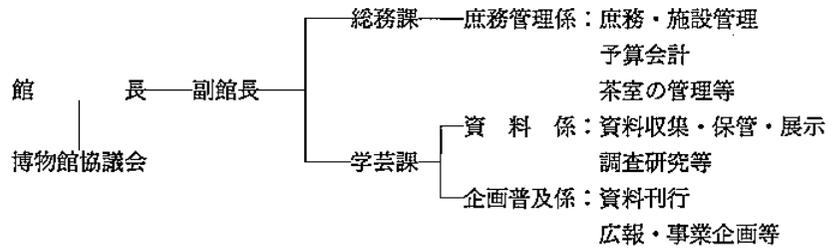
博物館日誌 昭和62年度

昭和62年 4月 1日	職員人事異動 第1期常設展「佐賀県の歴史と文化」(～6月28日)
5月 2日	第38回全国植樹祭記念・特別企画「森林と文化展」(～5月31日)
5月 5日	「こどもの日」を祝って、博物館・美術館常設展無料開館
5月16日	博物館研究講座「みどりのある風景」講師九州芸工大教授 杉本正美
5月23日	天皇陛下、「森林と文化展」ご観覧のためご来館
7月 1日	第2期常設展「佐賀県の歴史と文化」(～10月18日)
7月22日	博物館学実習開校式(～8月1日)
9月19日	第37回佐賀県児童生徒理科作品展(～9月25日)
10月 3日	第7回よみがえれ佐賀展(～10月11日)
10月31日	第37回佐賀県美術展(～11月8日)
11月15日	第11回佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展(～11月23日)
11月27日	第3期常設展「佐賀県の歴史と文化」(～3月31日)
12月28日	執務納め式
昭和63年 1月 4日	執務始め式
1月15日	「成人の日」により、博物館・美術館常設展無料開館
2月 6日	博物館研究講座「弥生人の暮らしと祭り」講師愛媛大学教授 下條信行

規模および施設

本 館	施設	
構造	鉄筋コンクリート造	3階建
規模	敷地面積	30,926㎡
	建築面積	2,149.1㎡
	延床面積	4,638㎡
茶 室	施設	
構造	木造平屋建	
規模	床面積	57.35㎡
	ロビー(案内所・常設展受付)	349.5㎡
	1号展示室	193.6㎡
	2号展示室	352.0㎡
	3号展示室	484.0㎡
	大展示室	523.5㎡
	中展示室	136.0㎡
	収蔵庫並整理室	524.0㎡
	研究室	66.0㎡
	館長室・応接室	60.0㎡
	事務室	80.0㎡
	資料調査室	64.0㎡
	撮影暗室	24.0㎡
	車庫	56.0㎡
	荷解場	86.0㎡
	電気室	48.0㎡
	ボイラー室(制御室を含む)	181.0㎡
	その他	1,410.4㎡

組 織



職 員 名 簿 昭和62年 4月1日現在

課 名	職 名	氏 名	課 名	職 名	氏 名		
館	長	大 塚 正 道	学 芸 課	学 芸 課 長	小 宮 睦 之		
副館長(総務課長事務取扱)		木 下 一 義		資 料 係	資 料 係 長	田 中 裕	
副 館 長	館 長	高 島 忠 平			主(学芸員)査	宮 原 香 苗	
	庶務管理係長	赤 坂 一 憲			学 芸 員	松 本 誠 一	
	主 査	中 村 美 沙 子			学 芸 員	大 隈 博 文	
	主 査	古 川 宣 明		非常勤嘱託	浜 野 四 郎		
	主 事	大 島 暁 夫		企 画 普 及 係	企画普及係長	木 下 巧	
	主 事	中 島 恭 助			主(学芸員)査	藤 口 健 二	
	主 事	石 井 康 芳			学 芸 員	福 井 尚 寿	
	事 務 員	坂 井 卓 次			学 芸 員	山 崎 和 文	
	事 務 員	小 石 武 彦					計 23名
	技 術 員	戸 川 内 匠					
非常勤嘱託	真 子 昭 作						

人 事 異 動 昭和62年 4月1日付

○ 転 入

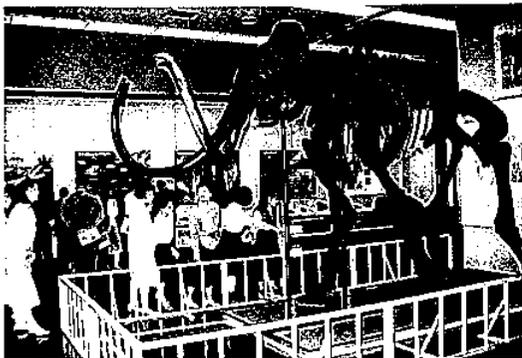
副 館 長 木下 一義(地方課長補佐より)
(総務課長事務取扱)
 庶務管理係長 赤坂 一憲(企画開発室主査より)
 主 事 石井 康芳(佐賀工業高校より)
 非常勤嘱託 真子 昭作(総合福祉センターより)

○ 転 出

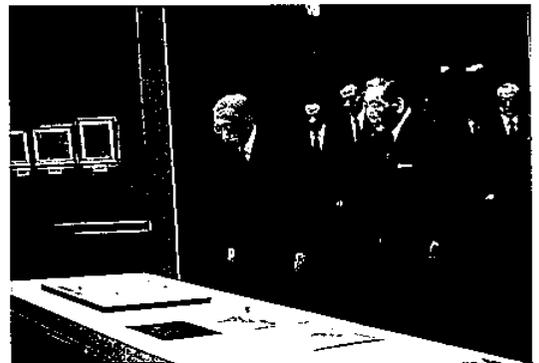
副 館 長 神宮 忠義(退 職)
 総 務 課 長 溝口 洋(道路課長補佐へ)
 主 事 石田 誠(佐賀工業高校へ)
 非常勤嘱託 穂月 勝次(退 職)

博物館歳出予算 昭和62年度

科 目	予算額(単位千円)	科 目	予算額(単位千円)
(博物館費)		4 企画展費	4,789
1 博物館運営費	40,063	企画展開催費	4,741
管理運営費	39,171	理科作品展	48
会議及び研修費	561	5 常設展費	1,728
博物館協議会費	331	常設展示費	1,728
2 資料整備費	13,095	6 普及活動費	29
資料購入費	8,601	研究講座費	29
資料整理費	4,367	7 資料刊行費	512
資料収集費	127	8 茶室管理費	201
3 調査研究費	756		
研究費	170		
調査費	586		
次年度調査費	0		
歴史美術調査費	78		
考古資料調査費	80		
調査刊行費	428	計	61,173



森林と文化展より (P14~35参照)



天皇行幸
昭和62年5月23日

事業の実施状況

1. 昭和62年度 博物館常設展

第1期 4月1日～6月28日

第2期 7月1日～10月18日

(博物館3号展示室は8月30日まで)

第3期 11月27日～63年3月31日

I 佐賀県の自然 (中展示室)

佐賀県は九州の北西部に位置し、北東部は福岡県、西部は長崎県に隣接する。北は対馬暖流が北上する玄界灘に面し、南は干満の差が大きい有明海が広がる。

佐賀県を地形的に大別すると、脊振山地、西部地域、多良火山地、佐賀平野の四地域に分けられる。脊振山地は県北部に横たわる山地で、古生代末期の三郡変成岩類と、これに貫入した中生代白亜紀の花崗岩類で構成されている。西部地域は八幡岳、黒髪山、国見山を含む熔岩台地で、新生代第三紀の堆積岩類と、その上に噴出した第三紀末から第四紀初めの各種火山岩類で構成されている。北西海岸はリアス式海岸で、島嶼部は西部地域熔岩台地の延長とみられる。多良火山地は第四紀初期に形成された安山岩質の成層火山である。佐賀平野は新生代第四紀沖積世に、筑後川、嘉瀬川、六角川によってつくられた複合三角州で、表層は沖積世の有明粘土層、下層は洪積世の堆積物が存在する。

佐賀県産の化石は新生代5000万年前以降にできた第三紀、第四紀の二枚貝、巻き貝、オウムガイ化石など軟体動物やサメの歯、ナウマン象化石など脊椎動物化石、メタセコイア、ハス、ヤナギの葉、珪化木など植物化石が産する。この中でヨコヤマオオムガイの化石は、この種最大で、直径40cm以上ある。

「生きた化石」と呼ばれる有明海のオオシャミセンガイ、ミドリシャミセンガイ、伊万里湾のカプトガニ、多良火山地のムカシトンボは地質時代の生き残りの生物として有名である。

動物のアリアケシラウオ、ヤマノカミ、ワラスボ、チクゴエビ、アリアケガニは有明海だけに住む特産種であり、植物のカネコシダ、ハガクレカナワラビ、クロカミラン、ヒレフリカラマツ、キュウシュウコゴメグサ、クロカミシライトソウ、ピロウドクサイチゴ、リュウゾウジヤナギ、クセンブツツジなどが佐賀県で発見された原産地植物である。

また佐賀県は渡り鳥のシギ、チドリ、カモ類が玄界や有明海沿岸に多数飛来する。現在までに記録された野鳥は317種にのぼる。佐賀の県鳥カササギは、国の天然記念物として大切に保護されている。

- ① 佐賀県のおいたち
佐賀県の地質図、地形模型、県内の岩石
- ② 佐賀県の植物
クロカミラン、ヒレフリカラマツ、カネコシダ、クロカミシライトソウ 他
- ③ 佐賀県の蝶
ミカドアゲハ、キリシマミドリシジミ 他
- ④ 佐賀県の野鳥
カササギ、カケス、キジ、ヤマドリ 他
- ⑤ 佐賀県の化石
ヨコヤマオオムガイ、シキシマハス 他
- ⑥ 有明海の模型
- ⑦ タイラノザウルス模型
- ⑧ 佐賀県の森林模型 他

II 原始・古代の郷土 (1号展示室)

旧石器時代・縄文時代

近年我が国の旧石器文化探求の勢いは目ざましく、10万年以前の前期旧石器文化の様相もかなり鮮明になりつつある。本県の資料は後期から終末期のものに限られるが、多久市鬼の鼻山(安山岩)や伊万里市腰岳(黒曜石)などの石器素材原産地を中心に特色ある石器文化が展開している。

縄文時代も基本的には採集経済の社会であったが、石器とともに土器が用いられるようになり、人々の食生活は一層安定した。

- ① 石器を使った人々—旧石器時代—
 - ・石器に使用された原石
 - ・旧石器時代末期の各種石器
- ② 土器を使うくらし—縄文時代—
 - ・縄文時代早～前期の土器と石器
 - ・縄文時代中期の土器と石器
 - ・縄文時代後～晩期の土器と石器

弥生時代・古墳時代

弥生時代になると水稻耕作中心の生産経済社会となり、各集落の統合・離反の中から、やがて部族国

家が形成されてゆく。本県は特に大陸文化を受容し、それを日本化していく弥生文化揺籃の地として重要な位置を占める。

古墳時代は前方後円墳に象徴される権力者の抬頭と統一国家形成が進展した政治的激動期であった。同時に須恵器生産や製鉄に代表されるような先進技術が多くの渡来人によってもたらされた時代でもあった。

① 水稲農耕社会の発展—弥生時代—

- ・土器の変遷
- ・大陸系磨製石器
- ・青銅製武器から鉄製武器へ
- ・弥生人の装身具
- ・青銅の鏡（舶載鏡と仿製鏡）
- ・弥生人のまつり（銅鐸・青銅製武器形祭器）

② 古墳が築かれた頃—古墳時代—

- ・古墳時代前期の土器—土師器—
- ・古墳時代後期の土器—須恵器—
- ・古墳時代の鏡
- ・古墳時代の武器
- ・古墳時代の馬具
- ・古墳時代の装身具
- ・円筒埴輪

◎ 特別展示「土生遺跡出土の木製品」

昭和62年1月～3月

III 古代・中世の郷土（2号展示室）

奈良時代に律令制が成立し、肥前には駅18所・烽20所が付設され、11郡・70郷・187（184？）里が存在した。奈良時代初頭の人口は肥前全体で約9万人、水田面積は約1万ヘクタール、現在の佐賀県地域には約7万人がおり、米のほか粟・麦・豆類などが栽培されていたと推定されている。また、松浦地方では、海女たちを中心とする海産業が行われていた。

しかし、平安時代には律令制が崩壊し、肥前の地でも、院御領の神崎御荘（神埼郡南部）や太宰府観世音寺領中津荘（杵島郡白石町）などの荘園が成立し、一方で在地領主層の成立もみせている。

鎌倉時代には、既に武士化していた在地領主層の高木宗家や南二郎季家などが現在の佐賀郡大和町春日や佐賀市城内付近などの地頭職に任命されている。

さて、元寇に際しては、松浦党や肥前の武将の活

躍目ざましく、暴風雨の助けもあり、これを退けたが、佐志氏や山代氏の一族、竜造寺小三郎左衛門尉などが戦死し、異国警護番役や石築地役などの出費もかさみ、御家人は経済的にも圧迫されたが、当時幕府領となっていた神崎荘は四百余人に細かく分配されるなど、幕府は十分な恩賞は出せなかった。

こうした不満から鎌倉倒幕が起きた。これに即応して小弐・大友・島津氏らが太宰府の鎮西探題を攻め、肥前の武将の多くもこれに従った。また、建武2年（1335）の足利氏の挙兵には、竜造寺家房・千葉胤貞が応じ、後に松浦党もこれに加わった。

これ以降の九州は、一時的には、尊氏配下の鎮西探題一色道猷や征西將軍懷良親王に平定されたが、九州探題淡川・大内氏と小弐氏の間を中心にした争いが繰り返され、こうした戦乱のなかで、竜造寺氏が大きく成長し、肥前の統一を進めていく。

1. 郷土の仏教美術

聖観音立像（複製：三田川町東妙寺蔵）・木造菩薩形立像（個人蔵）・木造菩薩形立像（個人蔵）・木造地藏菩薩坐像（大和町高城寺蔵）・絹本着色阿闍梨曼荼羅図（多久市妙覚寺蔵）・絹本着色不動明王像（個人蔵）・紙本墨書妙法蓮華経断巻（唐津市鏡神社蔵）・紺紙金字妙法蓮華経（個人蔵）・銅造菩薩形坐像（鹿島市普明寺蔵）・絹本着色阿弥陀八大菩薩像（武雄市広福護国禪寺蔵）・絹本着色釈迦三尊及び眷属像（武雄市広福護国禪寺蔵）・絹本墨画淡彩善財童子歴参図（武雄市広福護国禪寺蔵）・絹本墨画淡彩楊柳観音像（武雄市広福護国禪寺蔵）・絹本着色楊柳観音像（唐津市鏡神社蔵）

IV 近世のあゆみ（2号展示室）

九州の戦国期に島津・大友氏と三分した肥前の雄竜造寺隆信が台頭のきっかけは「肥前の桶狭間合戦」といわれる今山の合戦である。隆信が敵将大友八郎を討取った成松信勝に与えた感謝状は第一級の史料であり、隆信の肖像は戦国武将の面影を伝えている。この竜造寺隆信が戦死して鍋島家への政権交代に大きな役割を果たした秀吉が築いた「肥前名護屋城図屏風」は名護屋城を考える上での貴重な史料である。現在の佐賀県内には、佐賀藩・唐津藩・津島藩の領地（のちには一部天領）に分けられた。その佐賀藩は外様大名として独特な藩治を行い、また、長崎警

備を福岡藩と交代で命ぜられた。「はがくれ」を生んだ風土であるが、儒学・武芸を尊び、弘道館等の教育が行われ多くの人材を輩出した。幕府の昌平黉で教授となった古賀精里などの人材、またこれに教育された人々が幕末期の藩政の危機を救い、明治維新时期での飛躍の原動力となっている。医学や軍事力の増強など、蘭学・英学などの知識・技術の導入に積極的で、我が国最初の反射炉による鉄製大砲の製造、蒸気機関車雛型の製作、蒸気船の建造など技術水準を物語る展示品がある。なお、展示替の際に肥前忠吉系の作品を初代より9代まで展示した。通常の小テーマは次の通りである。

- ① 肥前の統一
- ② 肥前名護屋城の築城
- ③ 近世諸藩の成立
- ④ 藩政期の文教
- ⑤ 長崎警備
- ⑥ 幕末の対外情勢
- ⑦ 鍋島直正の登場
- ⑧ 長崎海軍伝習所
- ⑨ 幕末の科学技術
- ⑩ 維新时期の群像

V 肥前の近世工芸（3号展示室）

朝鮮陶工達の手で産みだされた古唐津の陶器、泉山陶石で焼かれた日本初の磁器、初期伊万里様式の素朴な器から色絵の美を完成した柿右衛門様式、古伊万里様式、藩の保護下に整えられた鍋島藩窯様式、郷土を代表し、近世日本の陶磁器をリードし、ヨーロッパではその倣製品が焼かれるほどに名を上げた肥前の陶磁器を紹介する。

染織では、木綿糸を素材とし畳一畳の大きさを基本とした鍋島緞通がある。鍋島藩窯の磁器と同じく様式化された雷文の縁織や、唐花や蟹牡丹をモチーフにした図案に特色がある。明治末年に絶えた鍋島更紗は、陶磁器と時を同じくして肥前に伝えられたとする秘伝書（江戸後期の作）が現存する貴重な資料で、期間を限っての展示となる。

鹿島鍋島家伝世の漆器類や小袖は、高貴な姫君の日常をしのぶよすがとなる。

第1期（4月6日～6月28日）

- ・叩き褐釉三耳付葉茶壺
三島唐津象嵌雲鶴文鉢
絵唐津柳文深向付
染付葡萄蝶文皿
染付花蝶文皿
染付松竹梅文筒茶碗
染付青磁菊花文碗
 - ・鍋島緞通：蟹牡丹文
唐草花文（～5月10日）
 - ・色絵牡丹唐草文皿
色絵花文向付（5客）
色絵菱更紗文皿
染付錆釉梅樹文変形皿*
染付人参文皿*
色絵桜樹文輪花鉢
染付竹雀図徳利
色絵梅花桃文皿*
染付芙蓉手花鳥図皿*
染錦御所車風俗図髹皿
染付芙蓉手花籠図皿（～6月28日）
 - ・鍋島更紗：見本帖「さらき屋兵右衛門」
幔幕「鍋嶋茶羅紗」
端裂集の一部
（5月12日～6月7日）
 - ・鍋島緞通：蟹牡丹文
唐草花文
蝶唐花文（6月9日～28日）
- 第2期（7月1日～10月18日） 同上
- 第3期（11月27日～3月6日）
- ・三島唐津象嵌雲鶴文鉢
三島唐津松文徳利
染付日輪山水図皿
染付松竹梅文筒茶碗
色絵花蝶八橋図壺
柿右衛門様式色絵磁器と倣製品（13点）
色絵菱更紗文皿
染付青磁扇文皿
染錦御所車風俗図髹皿
染錦風俗図面取壺（寄託）
 - ・染織：黄緑地花鳥翹葉紋小袖
和更紗花鳥図屏風（鍋島報效会）
 - ・漆器：八宝菱蒔絵将棋盤・駒箱
梨地翹葉紋散蒔絵香箱
翹葉紋散蒔絵箱・歌加留多

蔓草翹葉紋蒔絵鏡箱・柄鏡
 「松村因幡椽藤原重義」
 蔓草翹葉紋蒔絵鏡箱・柄鏡
 「松村因幡椽藤原重義」
 蔓草翹葉紋蒔絵鏡掛(鹿島鍋島家寄贈)



VI 肥前の近世絵画と近代の書（3号展示室）

肥前のうち長崎においては、外国との交渉により写生派・洋画派などが生まれ、絵画史上大きな影響をえたといえる。一方、佐賀藩・唐津藩における画壇は、必ずしも活発ではなく、漢画系が中心であったが、主導的立場にあるべきお抱絵師にしても、その系譜は断続的であった。しかし、幕末頃には写生画・南画・浮世絵なども制作されるようになり、また西洋絵画に対する理解もすすみ、近代の百武兼行登場を待つことになる。

第Ⅰ期（4月7日～6月14日）

馬渡高雲 達磨図
 天龍道人 葡萄に鷹図
 草場佩川 梅図
 古川松根 花瓶に筆立図
 武富圀南 山水図
 作者不詳 山桜図屏風
 (5/12から長谷川雪旦 四季耕作図屏風)

第Ⅱ期（7月1日～9月15日）

大木英鉄 鍋島主水家人物肖像
 伊藤若冲 鶏図
 天龍道人 藻鯉図
 古川松根 桜月図
 草場佩川 竹図屏風
 作者不詳 達磨図

作者不詳 霞ヶ関黒田屋敷
 第Ⅲ期（11月27日～3月8日）
 作者不詳 禅宗祖師図屏風
 天龍道人 梅に鷹図
 武富圀南 古梅図
 古川松根 宝船図
 周幽斎夏龍 耕織図屏風

近代は、書においても芸術性の追求が盛んになる時期である。本県関係では、明治の元勳副島種臣(蒼海)や、当時「銀座の書聖」と呼ばれた中林隆経(梧竹)、さらに西川春洞らが能書家として知られる。

第Ⅰ期

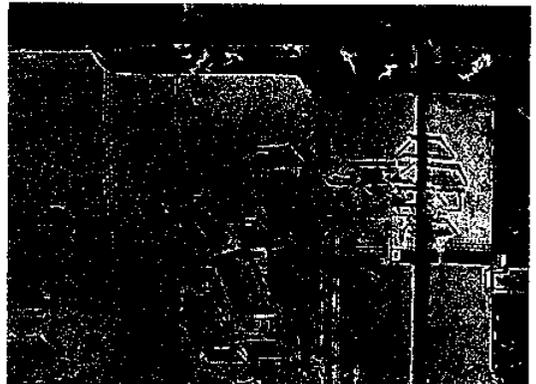
中林梧竹 十七帖臨書屏風
 副島種臣 李鴻章評語
 二行書「衆人…」
 五行書「江水…」
 七言絶句三行書「五月…」
 書額「宏濟閣」(第Ⅱ期、第Ⅲ期
 にも展示)

第Ⅱ期

中林梧竹 十七帖臨書屏風(児女帖外)
 副島種臣 二行書「必得…」
 七言絶句二行書「六代…」(双幅)
 書額「掃雲飛雨」

第Ⅲ期

中林梧竹 漢詩屏風
 副島種臣 杜甫詩「蜀相」屏風



新収蔵品展より

慶長年間佐賀城図

VII 郷土の民俗（大展示室）

郷土の民俗では、歴史を民俗的視野から概観できるよう試みている。

とくに、国の重要有形民俗文化財に指定されている有明海漁撈具は内容・量ともに充実しており幕末から明治初頭にかけての作と思われる「有明海漁業実況図」（松田房晃筆・全23図）と共に、有明海の漁撈習俗を十分に知ることができる。また、有明海関係の資料として昭和42年7月1日の狩猟法改正の時期まで使用されていた鴨銃とその弾丸製作工程は、当時の有明海における狩猟の状況を知ることが可能といえよう。

農業関係の資料としては、灌漑・害虫駆除に苦しんだ時期にあたる明治・大正年間を中心として使用された各種農具があり、佐賀農業の発展を願う農民の強い意志がうかがわれ、様々な工夫がなされていることも知ることができる。

その他、鳥栖市田代を中心とした製薬・売薬関係資料、東松浦郡相知町横枕の大甕製作用具や韓国で使用されている製陶用具、名護屋の海土を含む玄海の漁撈具等が、佐賀の民俗を特色づけている。

- ① 佐賀の民俗行事写真パネル
- ② 住まいの道具
 - ・収納家具 ・あかり
- ③ 佐賀県農業のあゆみ
 - ・耕作用具 ・管理用具 ・収穫用具
 - ・調整用具 ・泥土揚げ用具
- ④ 有明海の漁業
 - ・干潟漁業と用具 ・養殖と採捕用具
 - ・有明海漁業実況図 ・船で使う生活用具
 - ・名護屋の海土 ・釣漁
- ⑤ 相知町の横枕の大甕づくり
- ⑥ 韓国の製陶用具
- ⑦ 製薬関係資料
- ⑧ 和紙製作用具

2. 昭和62年度 博物館新収蔵品展

会 期 昭和63年3月8日～3月31日

会 場 3号展示室

自然科学

・佐賀県産鳥類標本

セグロカモメ・カササギ・タゲリ・オシドリ・アカショウビン・ヤマセミ・ハイタカ・マグラウミスズメ・オオコノハズク・フクロウ・キレンジャク・ゴイサギ幼鳥・カルガモ・ヒドリガモ・シロハラ・シメ・ツグミ・セッカ

・九州産蝶類標本：オオムラサキ

考 古

・経塚山古墳出土品（複製）

方格規矩鏡・鉄刀・鉄剣・雑型鉄器 4件10点

歴 史

- | | | |
|------|--------------------|----|
| ・古地図 | 肥前名護屋城并陣図 | 一面 |
| | 唐津藩領内図 | 一面 |
| | 文化元年ロシア船渡来図 | 一面 |
| | 文化三年ロシア人渡来図 | 一面 |
| | 正保四年長崎警備図 | 一面 |
| | 佐賀城図（寄託） | 四面 |
| ・武具類 | 当世具足（甲冑） | 一式 |
| | 足軽具足 | 一式 |
| | 陣羽織 | 一着 |
| ・文書類 | 蓮池藩主鍋島直紀史料 | |
| | 元治元年拝領天杯ならびに書状など一件 | |

近世絵画

- | | | |
|----------|-------|----|
| 山水 図 屏 風 | 伝雲谷等顔 | 寄託 |
| 弁財天十五童子図 | 鍋島綱茂 | 寄贈 |
| 寿 星 図 | 草場佩川 | 購入 |
| 四季の花 図 | 柴田是真 | 購入 |
| 花見 図 屏 風 | 武谷雪溪 | 購入 |

書

- | | | |
|-----------|------|----|
| 和歌「独対夜燈座」 | 吉川松根 | 寄託 |
| 十七帖臨書屏風 | 中林梧竹 | 寄託 |

民 俗

- | | | |
|-----------|-----------------|--|
| カゴ作り工程資料 | 栗山時雄（武雄市） | |
| 木臘作り工程資料 | 牟田 汪（東脊振村） | |
| 林業土曳き工程資料 | 川本初太郎・盛田二六（七山村） | |

3. 昭和62年度 特別企画 森林と文化展

主催 佐賀県立博物館
佐賀県・佐賀県教育委員会
第38回全国植樹祭佐賀県実行委員会
協賛 佐賀県緑化推進委員会
会期 昭和62年5月2日(土)～5月31日(日)
会場 佐賀県立美術館 2・3・4号展示室
観覧料 大人 500円(400円)
大学生 250円(150円)
高校生以下は無料
()内は団体料金 団体は20名以上

パンフレット

森林と文化展のために、カラー版8ページの冊子を6,000部印刷、無料で入館者に配布、好評だった。

講演会

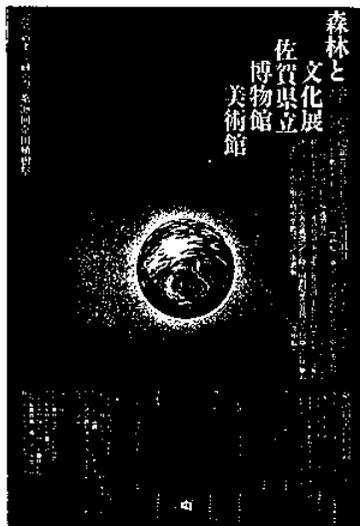
演題 「みどりのある風景」
講師 九州芸術工科大学教授農学博士 杉本正美氏
日時 昭和62年5月16日
(土)14:00～16:00
場所 佐賀県立美術館
ホール

* この他、第38回全国植樹祭佐賀県実行委員会を中心に共催事業、親子ふれあい木工教室、グリーン・コンサートなどが開催された。

森林と文化展



パンフレット



ポスター

展示概要

第38回全国植樹祭を記念して開催された本展は、森林の歴史と文化を再検討するものである。

四季の変化にとみ、緑豊かな自然に恵まれた佐賀県も、経済の高度成長にともない、開発の手がのび、都市圏内の緑の消失、山村では山村特有の文化が失われ荒廃しようとしている。

いったん失われた自然は、たやすく戻ってはこない。うるおいのある緑の文化、かけがえのない自然を守り育てるには、何を為すべきか、新しい森林とのつきあいを模索するものである。

展示の構成は次のとおりである。

I 森は生きている

- 1 森林の歴史 4億年の森林の進化
- 2 森林のはたらき
世界の森林破壊と植物・森林のはたらき
- 3 人びとと森のめぐみ
縄文時代から近代までの佐賀県の人びとと森のつきあい

II 郷土のみどり

- 1 佐賀県の自然と植物
佐賀の代表的な山岳・海岸・湿地と植物
- 2 佐賀県の昆虫類
佐賀県産の蝶類・トンボ類・蛾類・甲虫類
- 3 佐賀県の鳥獣類
佐賀県の野鳥類やイノシシ、タヌキなど

III 森と人々の暮らし

- 1 森の暮らし・山村の生活
植林 炭焼き 胴引 狩猟 山の神
- 2 森の利用・木の文化
竹細工 面浮立・樽・独楽作り 鍛冶屋
油絞り 木臘
- 3 バイオテクノロジー
ミカンの組織培養 薬培養 細胞融合
牛胚の移植 生物防除

IV たかめよう緑の力

- 全国植樹祭の歩み 市町村の木と花園・県指定天然記念物 緑の少年団
農林高校の林業教育

I 森は生きている〔パネル編1〕

1. 森林の歴史					
No	タイトル	内 容	No	タイトル	内 容
1	地球の歴史	地球46億年・生物34億年のら施史を図で示す	3	森林を守る	雪害や伐採跡地への植林 鎮守の森や天然林の保護
2	植物の上陸	古生代・シルル紀に上陸した プシロフィトン類	4	森林の誕生	岩の裸地から地衣類、草原へ さらに森林への発達
3	花のさかない森	地上最初の森林、石炭紀のシ ダ植物	5	植物がつく る食糧	植物(葉緑体)は太陽エネルギ ーを吸収して有機物をつくる
4	裸子植物の森	中生代の裸子植物の森林と 恐竜の世界	6	生 態 系	共存共栄する生きものたち
5	石炭の森	新生代の被子植物の森林	7	緑のダム	森林は洪水や旱魃を防ぐ
6	人類初期の森	初期の人類とゾウと照葉樹 林の森	3. 人びとと森のめぐみ		
7	世界の植生区分	世界を9つの植生に分け、世 界地図と森林の写真	1	照葉樹林と縄 文人の暮らし	縄文人たちは山菜や木の実 の採集、山野での狩りをした
8	トリケラト プス	中生代の恐竜の生態と解説	2	4000年のい のち	縄文アラカシの発芽とドン グリ類とアク抜き技術
9	マンモス	新生代の哺乳類の生態と解 説	3	弥生・古墳 文化と木	弥生・古墳時代の農耕具や住 居の木の利用
2. 森林のはたらき			4	古代・中世の くらしと木	古代から中世にかけての建 築技術の発達
1	世界の主要 森林地帯	世界の森林地帯と世界の木 材の輸出地域	5	木の消費と 保護政策	窯場の炉木、薪炭、建築用材 の消費と植林、乱伐の防止
2	森林破壊	焼き畑農業や過剰放牧の実 態	6	人工林率 全国一	近・現代の進む森林開発と消 えゆく天然林

化石標本〔展示資料編1〕

No	資 料 名	種 名	時 代	数量	所 蔵 者
1	三 葉 虫	Flexicalymene meeki	古生代 オルドビス紀	1	北九州市立市自然史博物館
2	ウミサソリ類	Eurypterus remipes	古生代 シルル紀	1	〃
3	直 角 貝	Orthoceras sp.	古生代 オルドビス紀	1	〃
4	石 灰 藻		先カンブリア紀	1	佐賀県立博物館
5	リ ン ボ ク	Lepidodendron sp.	古生代 石炭紀	1	北九州市立市自然史博物館
6	ペコプテリスミルトニ	Pecopteris miltoni	古生代 石炭紀	1	〃
7	アヌラリア	Annularia sp.	古生代 石炭紀	1	〃
8	グロソプテリス	Glossopteris brouniana	古生代 ヘルム紀	1	〃
9	恐 竜 の 卵	Oolithes spheroides	中生代 白亜紀	1	〃
10	トリケラトプス	Triceratops prorsus	中生代 白亜紀	1	〃
11	アンモナイト、ヤイシ、オウムガイ		中生代 ジュラ紀	1	〃
12	クラドフレビス、ラシボルスキー	Cladophlebis raciborskii	中生代 三疊紀	1	〃
13	珪 化 木		中生代 三疊紀	1	〃
14	バイエラ、フルカタ	Baiera furcata	中生代 三疊紀	1	〃

森林と文化展

No	資料名	種名	時代	数量	所蔵者
15	ポドザミテス		中生代 三疊紀	1	北九州市立自然史博物館
16	ギンコイジュウム	Ginkgoidium nothorsti	中生代 ジュラ紀	1	〃
17	イチヨウ		中生代 三疊紀	1	佐賀県立博物館
18	トクサの仲間		中生代 三疊紀	1	〃
19	サンヨウチュウ		古生代	1	熊本市立熊本博物館
20	プロトフィルム		中生代 白亜紀	1	〃
21	グラドフレビス	Cladophlebis sp.	中生代 白亜紀	1	〃
22	ヒシの家	Hemitrapa sp.	新生代	1	〃
23	ヤベオオツノシカの肩甲骨	Sinomegaceros yobei	新生代 第四紀 更新世	1	北九州市立自然史博物館
24	マンモス	Mammuthus primigenius	新生代 第四紀 更新世	1	〃
25	ムカシニホンジカの下顎骨	Cervus praenipponicus	新生代	1	〃
26	珪化木		新生代 第三紀	1	〃
27	針葉樹の珪化木		新生代 第三紀	1	〃
28	メタセコイア	Metasequia disticha	新生代 鮮新世	1	〃
29	アリヌスサハリネンス		新生代 中新世	1	〃
30	ケヤキの一種	Zelkova ungeri	新生代 中新世中期	1	〃
31	カエデの一種	Acer cf. nordenskioldi	新生代 中新世中期	1	〃
32	ヤマモモの一種	Comptonia sp.	新生代 中新世	1	〃
33	ヨコヤマオウムガイ		新生代 第三紀	1	佐賀県立博物館
34	シキシマバス		新生代 第三紀	1	〃
35	メタセコイア	Metasequia sp.	新生代 第三紀	1	〃
36	ヤナギの一種		新生代 第三紀	1	〃
37	ブナの一種	Fagus amereama	新生代 第三紀	1	〃
38	石炭	Coal	新生代 第三紀	1	〃

植物樹幹標本〔展示資料編2〕

佐賀県産有用材					
科名	種名	所蔵者	科名	種名	所蔵者
マツ	クロマツ	林業試験場	ブナ	アラカシ	林業試験場
〃	アカマツ	〃	〃	ウラジロカシ	〃
〃	ツガ	〃	〃	シラカシ	〃
〃	モミ	〃	〃	マテバシイ	〃
イチイ	カヤ	〃	〃	クリ	〃
スギ	スギ	〃	〃	ブナ	〃
ヒノキ	ヒノキ	〃	マンサク	イスノキ	〃
アオギリ	アオギリ	〃	カエデ	モミジ	〃
モクレン	ホオノキ	〃	カキノキ	カキノキ	〃
モチノキ	アオハダ	〃	ゴマノハグサ	キリ	〃
モクセイ	ネズミモチ	〃	クスノキ	クスノキ	〃
ブナ	アカガシ	〃	〃	タブノキ	〃

科名	種名	所蔵者	科名	種名	所蔵者
クルミ	ノグルミ	林業試験場	カバノキ	シデ	林業試験場
クワ	クワ	〃	ウルシ	ハゼノキ	〃
〃	イヌビワ	〃	アケビ	アケビ	〃
ニレ	ケヤキ	〃	〃	ムベ	〃
ツバキ	サザンカ	〃	イネ	メダケ	〃
〃	ツバキ	〃	〃	マダケ	〃
〃	サカキ	〃	〃	モウソウチク	〃
カツラ	カツラ	〃	クスノキ	クスノキ	若楠会館
イバラ	ヤマザクラ	〃	日本国内産有用材		
〃	ビワ	〃	マツ	カラマツ	西九州外材
マメ	ネムノキ	〃	スギ	スギ(屋久杉)	熊本営林局
〃	ニセアカシア	〃	ブナ	イチイガシ	北九州自然史博
ウコギ	ハリギリ	〃	外国産有用材		
ミズキ	ミズキ	〃		ラワン(白)	西九州外材
ヤマモモ	ヤマモモ	〃		ラワン(赤)	〃
ミカン	カラスサンショウ	〃		タウン	〃
リョウブ	リョウブ	〃	マツ	ベイマツ	〃
カバノキ	ミズメ	〃	〃	カラマツ(ソ連)	〃

人びとと森のめぐみ【展示資料編3】

No	資料名	数量	遺跡名	時代	所蔵者	No	資料名	数量	遺跡名	時代	所蔵者
1	イノシシ(剥製)	1		現代	熊本県獣保健センター	16	シラカシ(現世)				林業試験場
2	タヌキ(〃)	1		〃	〃	17	シリブガシ(〃)				〃
3	キツネ(〃)	1		〃	〃	水さらしと加熱処理でアクぬきする木の実					
4	打製石鏃	6				18	コナラ				〃
5	石匙	2	県内	縄文時代		19	クヌギ				〃
6	石槍	3	西有田町 益人岩	縄文早期		20	トチ				〃
7	光頭器	3	多久市 茶園原	旧石器時代末期		21	チャンチンモドキ				県立博物館
アクぬきの必要でない木の実											
8	スグジイ(現世)				林業試験場	22	磨石	2	香田遺跡	縄文晩期	
9	ツブラジイ(〃)				〃	23	磨石	2	中野遺跡		県教委
10	マテバシイ(〃)				〃	24	石皿	1			〃
11	クリ(〃)				〃	25	扁平打製石斧	2	多久市天山	縄文後期 ～晩期	
12	クルミ(〃)				〃	26	磨製石斧	1	伊万里市 白蛇山		
水さらしでアクぬきできる木の実											
13	イチイガシ(〃)				〃	27	〃	1	西有田町 坂の下		
14	アラカシ(〃)		板の下遺跡		県立博物館	28	鯨骨圧痕つき土器	1			
15	アカガシ(〃)				林業試験場	29	羽圧痕つき甕	1	佐賀市 丸山遺跡	縄文晩期	
						30	炭化米	一括	唐津市 菜畑遺跡	〃	唐津市教委
						31	扶入石斧	1	唐津市菜畑		県博 (レプリカ)

森林と文化展

No	資料名	数量	遺跡名	時代	所蔵者	No	資料名	数量	遺跡名	時代	所蔵者
32	扁平片刃石斧	1	唐津市菜畑		県博(レプリカ)	43	木製馬鞍	1	石木遺跡	古墳時代	
33	石砲丁	1	〃		〃	44	木製馬鞍(前輪)	1	下中杖	平安時代	
34	石鎌	1	〃		〃	45	櫛	1		平安~鎌倉	
35	杵	1	〃		〃	46	カンザシ	1		鎌倉時代	
36	エブリ	1	〃		〃	47	オサ	1	石木遺跡	平安時代	
37	鉄	1	〃		〃	48	曲物	1	本分遺跡	鎌倉時代	
38	太形始刃石斧	1	小城市内出土	弥生中期	県立博物館	49	円鑑禅師	1		〃	
39	鉄斧	3	基山町千塔山	〃後期	基山町教委	50	菊桐蒔絵柄桶	1		室町時代	伝名護屋城秀吉使用
40	鉄ノミ	1	〃	〃	〃	51	細葉揚羽蝶台	1		江戸時代	
41	鉄手斧	1	山玉山古墳	古墳後期		52	十二日足紋付角盆	1		〃	
42	柱根	1	土生遺跡	弥生時代		53	秋草蒔絵煙草盆	1		〃	

II 郷土のみどり [パネル編2]

1. 佐賀県の自然と植物			2. 佐賀県の昆虫類		
No	タイトル	内 容	No	タイトル	内 容
1	日本の植生図	日本の照葉樹林帯、夏緑樹林帯、常緑樹林帯の地図と写真	8	佐賀県の蝶	佐賀県産の蝶を分布上5地区に分け、分布図と解説
2	佐賀県植物分布図	佐賀県の植生を代表的なヤブツバキクラス始め11に分けて図に示す	9	日本の蝶	日本の蝶をシベリヤ型、ヒマヤラ型など5つに分け解説
3	多良山系の植生図	経ヶ岳のモミ林、ブナ・アカガシの高木。チャルメルソウ群落など	10	世界の蝶	世界の蝶の地理的分布を5地区に分け、その解説
4	天山山系の植生図	山頂のミヤコザサやキウシュウコゴメグサなど	11	佐賀県産蛾類	個体数の少ないスギタニアオモンホソバミドリトウなどの分布
5	脊振山系の植生図	ブナ・ミヤコザサの自然林やコハウチワカエデなど	12	佐賀県産トンボ	分布の少ないムカシトンボハッチョウトンボなどの分布
6	黒髪山系の植生図	佐賀県特産のカネコシダ・ヒレフリカラマツなどの分布			
7	海岸の植生図	玄界の島嶼を主に暖帯の植物アノクマタケランなどの分布			

植物標本 [展示資料編4]

原産地植物				
科名	和名	学名	採集期日	採集者
ユリ	クロカミシライトソウ	Chionographis japonica Maxim var. Kurokamiana Hara	S 48. 5. 22	馬場胤義
ウラボシ	カネコシダ	Gleichenia laevissima Christ	37. 9. 16	〃
キンポウゲ	ヒレフリカラマツ	Thalictrum toyamae Hatus. et Ohwi	37. 5. 16	〃
ゴマノハグサ	キウシュウコゴメグサ	Euphrasia insignis wetst var. kiusiana Yamazaki	35. 8. 9	〃
オシダ	ハガクレカナワラビ	Arachniodes yasui-inouei Kurata	57. 3. 6	井上康彦
ヤナギ	リュウゾウジヤナギ	Salix × Hayatana Kimura	53. 9. 11	倉成靖任
バラ	ビロードクサイチゴ	Rubus × Babai Naruhashi	48. 4. 11	馬場胤義

科名	和名	学名	採集期日	採集者
ツツジ	クセンブツツジ	Rhododendron × Takanashianum	53. 8. 26	南谷忠志
ラン	クロカミラン	Ponerorchis Kurokamiana (Ohwi et Hatus) Maekawa	9. 6. 17	馬場胤義
脊振山				
ヒカゲノカズラ	ホソバトウゲシバ	Lycopodium serratum Thunb. var. serratum	36. 5. 30	馬場胤義
ゼンマイ	ヤドリゼンマイ	Osmunda cinnamomea Linn. var. fokiensis Copel.	31. 8. 4	〃
オシダ	オオサトメシダ	Athyrium × multifidum Ros.	41. 7. 31	〃
〃	オオクジャクシダ	Dryopteris dickinsii (Fr. et sav.) c. Chr.	36. 10. 11	〃
〃	ウハバミヤマノコギリシダ	Diplazium Mettenianum (Miq.) c. chr. var. tenuifolium Kurata	41. 7	井上康彦
ウラボシ	オシャクジデング	Polypodium fauriei Christ	44. 6. 1	倉成靖任
カバノキ	イヌシデ	Carpinus tschonoskii Maxim	55. 5. 18	馬場胤義
ブナ	ミズナラ	Quercus mongolica Fisch var. grosseserrata (Bl.) Rehd et wils.	55. 5. 18	〃
タデ	ヤマミゾソバ	Polygonum Thunbergii Sieb et Zucc	36. 10. 11	〃
クスノキ	シロモジ	Parabenzoin trilobum (Sieb et Zucc) Nakai	47. 6. 17	〃
〃	ケクロモジ	Lindera sericea (Sieb et Zucc) Blume	36. 5. 30	〃
〃	ウスダケクロモジ (ミヤマクロモジ)	Lindera sericea (Sieb et Zucc) Blume var. glabrata Blume	40. 8. 12	〃
キンボウゲ	サラシナショウマ	Cimicifuga simplex Wormsk	24. 8. 5	〃
ウマノスズクサ	ウンゼンアオイ	Heterotropa unzen F. Maekawa	36. 5. 28	〃
ユキノシタ	コガネコノメソウ	Chrysosplenium pilosum Maxim var. sphaeospermum (Maxim) Hara	36. 4. 25	〃
〃	イワボタン (ミヤマコノメソウ)	Chrysosplenium macrostemon Maxim	35. 8. 8	〃
〃	ツクシチャルメルソウ	Mitella kiusiana Makino	55. 5. 18	〃
バラ	コゴメウツギ	Stephanandra incisa (Thunb) Zabel	35. 8	〃
ミカン	ツルシキミ	Skimmia japonica Thunb. var. repens (Nakai) Ohwi	33. 8. 15	〃
ニシキギ	サワダツ	Euonymus melananthus Franch. et Savat.	55. 5. 18	〃
ミツバウツギ	ミツバウツギ	Staphyles bumalda (Thunb) DC.	53. 5. 14	岩村政浩
スミレ	エイザンスミレ	Viola eizanensis (Makino) Makino	36. 4. 25	馬場胤義
セリ	ヨロイグサ (オオシシウド)	Angelica dahurica (Fisch) Benth et Hook	24. 8. 2	〃
ツツジ	ベニドウダン	Tritomodon cernuus (Sieb et Zucc) Handa f. rubens Okuyama	36. 3. 30	〃
〃	シロドウダン	Tritomodon cernuus (Sied et Zucc) Honda	36. 5. 30	〃
アカネ	クルマムグラ	Galium japonicum Makino	35. 8. 3	〃
シソ	ニシキゴロモ	Ajuga yesoensis Maxim	31. 8. 4	〃

科名	和名	学名	採集期日	採集者
シ	ソ	ツルアキノタムラソウ	Salvia japonica Thunb var. stolonifera Murata	37. 9. 21 馬場胤義
	〃	タカクマヒキオコシ	Rabulosia shikokiana (Makino) Hara var. intermedia (Kudo) Hara	37. 9. 21 〃
	〃	ラショウモンカズラ	Meehania urticifolia (Miq) Makino	51. 5. 16 〃
ゴマノハグサ	キユウシュウコゴメグサ	Euphrasia insignis Wettst. var. kiusiana Yamazaki	43. 8. 8	〃
	〃	ツクシコゴメグサ	Euphrasia multifolia wettst	35. 8. 8 〃
スイカツラ	オトコヨウゾメ	Vibrunum phlebotrachum Sieb et Zucc	51. 5. 16	〃
	〃	コミヤマガマズミ (テリハミヤマガマズミ)	Vibrunum wrightii Miq var. minus Nakai	39. 9. 21 〃
	〃	オオカメノキ	Vibrunum furcatum Blume	55. 5. 18 〃
キ	ク	ノブキ	Adenocaulon himalaicum Edgew	31. 8. 4 〃
ユ	リ	ツクバネソウ	Paris tetraphylla A. Gray	55. 5. 18 〃
	〃	ホソバナコバイモ	Fritillaria amabilis Koidz	9. 4. 2 中島一男
イ	ネ	ヒメコヌカグサ	Agrostis nipponensis Honda	37. 5. 13 馬場胤義
	〃	ホガエリガヤ	Brylkinia caudata (Munro) Fr. Schm.	36. 5. 30 〃
	〃	ヤマヌカボ	Agrostis clavata Trin.	54. 5. 27 〃
サトイモ	ツクシマムシグサ	Arisaema Maximowiczii Nakai	53. 5. 14	岩村政治
カヤツリグサ	タガネソウ	Carex siderosticata Hance	53. 6. 13	〃
	〃	オタルスゲ	Carex otaruensis Franch	37. 5. 13 馬場胤義
	〃	ミヤマジュズスゲ	Carex dissitiflora Franch	55. 5. 18 〃
	〃	オクノカンスゲ	Carex foliosissima Fr. Schm.	44. 6. 1 〃
	〃	ヒゴクサ	Carex japonica Thunb	24. 8. 1 〃
	〃	ミヤマカンスゲ	Carex dolichostachya Hayata var. glaberima (Ohwi) T. Koyama	37. 5. 13 〃
天 山				
イノモトソウ	オウレンシダ	Dennstaedtia wilfordii (Moore) christ	35. 8. 20	馬場胤義
ブ	ナ	カシワ	Quercus acuta Thunb	11. 9. 6 〃
ニ	レ	エゾエノキ	Celtis jessoehsis Koidz.	53. 5. 3 〃
キンボウゲ	シギンカラマツ	Thalictrum actaeifolium Sieb. et Zucc.	47. 9. 6	〃
	〃	タンナトリカブト	Aconitum napiforme Lev. et Van	11. 9. 6 〃
メ	ギ	バイカイカリソウ	Epimedium dipyllum (Morr. et Decne.) Lodd.	11. 9. 6 〃
ユキノシタ	テリハアカショウマ	Astilbe Thunbergii (Sieb. et Zucc.) Miq. var. kiusiana Hara	14. 5. 15	〃
ミツバウツギ	ミツバウツギ	Staphylea bumalda (Thunb.) DC.	33. 7. 28	〃

科名	和名	学名	採集期日	採集者
イチヤクソウ	マルバノイチヤクソウ	<i>Pyrola nephrophylla</i> H. Andr.	30. 8. 3	馬場胤義
ゴマノハグサ	キュウシュウコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> Wettst. var. <i>kiusiana</i> Yamazaki	11. 9. 6	〃
マツムシソウ	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> Miq.	45. 9. 13	〃
キク	ヒロハヤマヨモギ	<i>Anthemis stolonifera</i> (Maxim) Komar.	30. 8. 3	〃
〃	ホソバナヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (Linn.) Benth et Hook. fil. aubsp. <i>japonica</i> (Sch.-Bip.) Kitam.	11. 9. 6	〃
〃	ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glaescens</i> Sch.-Bip.	23. 8. 22	〃
ユリ	シユロソウ	<i>Veratrum maackii</i> Regel var. <i>japonicum</i> (Baker) T. Shimizu	54. 8. 20	小池英毅
〃	ナガバシユロソウ (ホソバシユロソウ)	<i>Veratrum maackii</i> Regel var. <i>maackii</i> Regel	11. 9. 6	馬場胤義
イネ	コメガヤ	<i>Melica nutans</i> Linn.	40. 5. 16	〃
カヤツリグサ	イトテンツキ	<i>Bulboastylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz. var. <i>capitata</i> (Miq.) Ohwi	45. 9. 13	〃
ラン	クモキリソウ	<i>Liparis kumokiri</i> F. Maekawa	33. 7. 28	〃
〃	ムカゴソウ	<i>Herminium angustifolium</i> (Lindl.) Benth. var. <i>longicrue</i> (Wright) Makino	45. 9. 13	〃
黒髪山				
ウラジロ	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i> Christ	39. 4. 14	馬場胤義
コケシノブ	アオホラゴケ	<i>Crepidomanes insigne</i> (Bosch) Fu.	41. 4	〃
オシダ	ヒメハシゴシダ	<i>Thelypteris cystopteroides</i> (Eat.) Ching.	35. 7. 25	〃
〃	マルバベニシダ	<i>Dryopteris fuscipes</i> C. Chr.	54. 7. 27	〃
〃	サイゴクベニシダ	<i>Dryopteris championi</i> (Benth.) C. Chr.	54. 7. 25	〃
〃	カツモウイノデ	<i>Ctenitis subglandulosa</i> (Hance) Ching	49. 8. 11	〃
シシガシラ	ハチジョウカグマ	<i>Woodwardia orientalis</i> Sw. var. <i>formosana</i> Ros.	37. 7. 25	〃
チャセンシダ	ホウジシダ	<i>Asplenium unilaterale</i> Lam.	37. 7. 25	〃
〃	イワトラノオ	<i>Asplenium varians</i> Wall ex Hook	36. 8. 12	〃
〃	ヒノキシダ	<i>Asplenium prolongatum</i> Hook.	49. 8. 11	〃
〃	コウザキシダ	<i>Asplenium ritoense</i> Hayata	39. 3. 21	〃
ブナ	ウバメガシ	<i>Quercus phillyroeooides</i> A. Gray.	35. 8. 5	
ボロボロノキ	ボロボロノキ	<i>Scheffia jasminodora</i> Sieb. et Zucc	48. 5. 22	〃
クスノキ	バリバリノキ	<i>Litsea acuminata</i> (Blume) Kurata	7. 8. 15	〃
ペンケイソウ	ウンゼンマンネグサ	<i>Sedum yabeianum</i> Makino	47. 6. 24	〃
〃	ヤツガシラ	<i>Orostachys erubescens</i> (Maxim) Ohwi var. <i>polycephalus</i> (Makino) Ohwi	46. 11. 13	〃
ユキノシタ	ウチワダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> Hook f. var. <i>obtusocuneata</i> (Makino) Nakai		

科名	和名	学名	採集期日	採集者
ユキノシタ	ツクシネコノメソウ	<i>Chrysosplenium rhabdospermum</i> Maxim	54. 4. 10	馬場胤義
バラ	イブキシモツケ	<i>Spiraea nervosa</i> Franch et Savat	52. 4. 21	〃
マメ	ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i> Hooker fil ex Regel	36. 9. 13	〃
ジンチョウゲ	キガンピ	<i>Wikstroemia trichotoma</i> (Thumb) Makino	46. 8. 4	〃
キブシ	ナンバンキブシ	<i>Stachyurus praecox</i> Sieb et Zucc var. <i>Matsuzakii</i> (Nakai) Makino	47. 6. 24	〃
ツツジ	サイゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron nudipes</i> Nakai	49. 8. 11	〃
カキノキ	トキワガキ	<i>Diospyros morrisiana</i> Hance	46. 11. 13	〃
ハイノキ	カンザブノウキ	<i>Symplocos theophrastaefolia</i> Sieb et Zucc	47. 11	〃
シソ	イブキジャコウソウ	<i>Thymus serpyllum</i> Linn. subsp. <i>quincostatus</i> (Celak.) Kitam.	54. 7. 15	〃
キク	ブゼンノギク	<i>Heteropappus hispidus</i> (Thunb.) Less. subsp. <i>Koidzumianus</i> Kitam.	10. 9. 29	〃
ユリ	ヤマラッキョウ	<i>Allium thunbergii</i> G. Don.	35. 11. 4	〃
〃	イワゼキショウ	<i>Tofieldia unda</i> Maxim.	10. 9. 29	〃
カヤツリグサ	ツルナシオイトスゲ	<i>Carex tenuinervis</i> Ohwi	52. 4. 19	岩村政治
ラン	クロカミラン	<i>Ponerorchis kurokamiana</i> (Ohwi et Hatus.) F. Maekawa	9. 6. 17	馬場胤義
多良岳				
コケシノブ	アオホラゴケ	<i>Crepidomanes insigne</i> (Bosch) Fu.	28. 8. 17	馬場胤義
〃	コウヤコケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i> (v. d. Bosch) Baker	53. 8. 13	庭木信昌
オシダ	ホソバシヨリマ	<i>Thelypteris beddomei</i> (Bak) Ching	8. 9. 23	馬場胤義
〃	ツヤナシイノデ	<i>Polystichum ovato-paleaceum</i> (Kodama) Kurata	29. 8. 28	〃
〃	ツクシヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> (Makino) Tagawa var. <i>tukusicola</i> (Tagawa) Tagawa	38. 11. 10	〃
〃	タカオシケチシダ	<i>Comopteris decurreti-alata</i> (Hook) Nakai var. <i>pilosella</i> H. Ito.	36. 8. 16	〃
シシガシラ	オサシダ	<i>Struthiopteris amabilis</i> (Makino) Ching	36. 7. 16	〃
イラクサ	ヤマミズ	<i>Dilea japonica</i> (Maxim) Hand-Mazz	6. 8. 24	〃
タデ	ハルトラノオ	<i>Polygonum tenuicaule</i> Bisset et Moore	49. 8. 22	〃
〃	ミヤマタニソバ	<i>Polygonum debile</i> Meisn	6. 8. 24	〃
ナデシコ	ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> (Maxim.) Pax.	16. 4. 20	
キンボウゲ	オオバシヨウマ	<i>Cimicifuga acerina</i> (Sieb et Zucc)	6. 8. 24	〃
〃	レイジンソウ	<i>Aeonitum Loczyanum</i> R. Raymund	29. 8. 28	〃
マンサク	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc.	45. 11. 1	岩村政治
ベンケイソウ	タカネマンネングサ	<i>Sedum tricarpum</i> Makino	28. 8. 18	貞松光男

科名	和名	学名	採集期日	採集者
ユキノシタ	ヒメウツギ	<i>Deutzia gracilis</i> Sieb et Zucc	S 13. 8. 29	馬場胤義
〃	コガネネコノメソウ	<i>Chrysosplenium pilosum</i> Maxim. var. <i>sphaerospermum</i> (Maxim.) Hara	16. 4. 20	〃
〃	オオチャルメルソウ	<i>Mitella japonica</i> Maxim.	45. 5. 5	〃
バラ	ナナカマド	<i>Sorbus commixta</i> Hedl.	49. 8. 22	〃
カエデ	コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i> Miq.	36. 7. 16	〃
〃	チドリノキ	<i>Acer carpinifolium</i> Sieb. et Zucc.	36. 7. 16	〃
スミレ	エイザンスミレ	<i>Viola eizanensis</i> (Makino) Makino	49. 8. 22	〃
〃	コミヤマスミレ	<i>Viola maximowicziana</i> Makino	16. 4. 20	〃
〃	ヒメミヤマスミレ	<i>Viola sieboldi</i> Maxim subsp. <i>boisseuana</i> (Makino) F. Maekawa et Hashimoto	45. 5. 5	橋本 保
〃	シコクスミレ	<i>Viola shikokiana</i> Makino	16. 4. 20	馬場胤義
セリ	ミヤマチドメ	<i>Hydrocotyle japonica</i> Makino	6. 7. 23	〃
イチヤクソウ	シャクジョウソウ	<i>Monotropa hypopithys</i> Linn.		井上英幸
ツツジ	コバノミツバツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i> D. Don.	49. 8. 22	馬場胤義
〃	ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> Miq.	49. 8. 22	〃
〃	シロドウダン	<i>Tritomodon cenus</i> (Sieb. et Zucc.) Honda	57. 5. 23	庭木信昌
モクセイ	アオダモ	<i>Fraxinus lanuginosa</i> Koidz	36. 7. 16	馬場胤義
ムラサキ	オニルリソウ	<i>Cynoglossum asperrinum</i> Nakai	6. 8	〃
シソ	アキチョウジ	<i>Rabdosia longituba</i> (Miq) Hara	29. 8. 28	〃
スイカツラ	オオカメノキ (ムシカリ)	<i>Vibrunum furcatum</i> Blume	47. 8. 22	〃
キク	ツクシコウモリソウ	<i>Cacalia nipponica</i> Miq	37. 9. 26	〃
〃	ミヤマコウモリソウ	<i>Cacalia farfaraefolia</i> Sieb. et Zucc. var. <i>acerina</i> (Makino) kitam.	13. 8. 29	〃
〃	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i> Miq subsp. <i>kiushiana</i> (Franch) kitam.	29. 9. 23	〃
ユリ	カンザシギボウシ	<i>Hosta capitata</i> (Koidz) Nakai	43. 9. 14	岩村政浩
サトイモ	ツクシマムシグサ	<i>Arisaema maximowiczii</i> Nakai	36. 5. 25	馬場胤義
〃	ミツバテンナンショウ	<i>Arisaema temotipartitum</i> Makino	16. 4. 20	〃
カヤツリグサ	ヒメジュズスゲ	<i>Carex filipes</i> Fr. et Sav. var. <i>tremula</i> (Ohwi) Ohwi	45. 5. 5	〃
ラン	ジンバイソウ	<i>Platanthera florenti</i> Franch et Savat		井上英幸
〃	アオフトバラン	<i>Listera makinoana</i> Ohwi	18. 8. 16	馬場胤義
〃	ムカゴソウ	<i>Hermidium angustifolium</i> (Lindl.) Benth. var. <i>longicirure</i> (Wright) Makino	6. 8. 24	〃
〃	アケボノシュスラン	<i>Goodyera foliosa</i> (Lindl) Benth. var. <i>laevis</i> Finet	T 8.	〃

昆虫標本〔展示資料編5〕

鞘翅目					
科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
カミキリムシ	ベーツヒラタカミキリ	廣川 典範	カミキリムシ	トゲヒゲトビイロカミキリ	廣川 典範
〃	ウスバカミキリ	〃	〃	オダヒゲナガコバネカミキリ	〃
〃	ノコギリカミキリ	〃	〃	コジマヒゲナガコバネカミキリ	〃
〃	ニセノコギリカミキリ	〃	〃	クスベニカミキリ	〃
〃	コバネカミキリ	〃	〃	オオアオカミキリ	〃
〃	サビカミキリ	〃	〃	ヒメスギカミキリ	〃
〃	ツシムナタボカミキリ	〃	〃	スギカミキリ	〃
〃	オオクロカミキリ	〃	〃	トラフカミキリ	〃
〃	ホソカミキリ	〃	〃	ヤノトラカミキリ	〃
〃	クロカミキリ	〃	〃	ニイジマトラカミキリ	〃
〃	カラカネハナカミキリ	〃	〃	ウスイロトラカミキリ	〃
〃	キバネニセハムシハナカミキリ	〃	〃	クビアカトラカミキリ	〃
〃	ピックニセハムシハナカミキリ	〃	〃	シラケトラカミキリ	〃
〃	ヒナルリハナカミキリ	〃	〃	キンケトラカミキリ	〃
〃	ヒメハナカミキリ	〃	〃	キスジトリカミキリ	〃
〃	ナガバヒナハナカミキリ	〃	〃	エグリトラカミキリ	〃
〃	ヒミコヒメハナカミキリ	〃	〃	ヨツスジトラカミキリ	〃
〃	オオヒメハナカミキリ	〃	〃	フタオビミドリトラカミキリ	〃
〃	イヨヒメハナカミキリ	〃	〃	ホソトラカミキリ	〃
〃	ニセヨコモンヒメハナカミキリ	〃	〃	ヒメクロトラカミキリ	〃
〃	セスジヒメハナカミキリ	〃	〃	キイロトラカミキリ	〃
〃	チャイロヒメハナカミキリ	〃	〃	トビヒゲトラカミキリ	〃
〃	フタオビノミハナカミキリ	〃	〃	シロトラカミキリ	〃
〃	ヘリウスハナカミキリ	〃	〃	ホタルカミキリ	〃
〃	ミヤマクロハナカミキリ	〃	〃	ベニカミキリ	〃
〃	ミヤマルリハナカミキリ	〃	〃	シロオビゴマフカミキリ	〃
〃	ツヤケシハナカミキリ	〃	〃	カタジロゴマフカミキリ	〃
〃	アカハナカミキリ	〃	〃	ナガゴマフカミキリ	〃
〃	ムネアカクロハナカミキリ	〃	〃	タテスジゴマフカミキリ	〃
〃	ヤツボシハナカミキリ	〃	〃	キクスイモドキカミキリ	〃
〃	オオヨツスジハナカミキリ	〃	〃	シロオビチビカミキリ	〃
〃	アオバソハナカミキリ	〃	〃	ハスオビヒゲナガカミキリ	〃
〃	ホソハナカミキリ	〃	〃	ドウボソカミキリ	〃
〃	タテジマホソハナカミキリ	〃	〃	アメジロサビカミキリ	〃
〃	ニンフホソハナカミキリ	〃	〃	アトモンサビカミキリ	〃
〃	ヨツスジハナカミキリ	〃	〃	トガリシロオビカミキリ	〃
〃	ジャコウホソハナカミキリ	〃	〃	ナカジロサビカミキリ	〃
〃	クロソンホソハナカミキリ	〃	〃	セダコブヤハズカミキリ	〃
〃	アオスジカミキリ	〃	〃	ヒメヒゲナガカミキリ	〃
〃	ベーツヤサカカミキリ	〃	〃	ピロウドカミキリ	〃
〃	キマダラヤマカミキリ	〃	〃	チャイロヒゲピロウカミキリ	〃
〃	トビイロカミキリ	〃	〃	ニセピロウドカミキリ	〃

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
カミキリムシ	ヤハズカミキリ	廣川 典範	クワガタムシ	ミヤマクワガタ	廣川 典範
〃	ヒゲナガカミキリ	〃	〃	ミクラミヤマクワガタ	〃
〃	ゴマダラカミキリ	〃	〃	アマミミヤマクワガタ	〃
〃	センノカミキリ	〃	〃	ヤエヤママルバネクワガタ	〃
〃	クワカミキリ	〃	〃	チャイロマルバネクワガタ	〃
〃	キボシカミキリ	〃	〃	ノコギリクワガタ	〃
〃	ヒゲナガゴマフカミキリ	〃	〃	アマミノコギリクワガタ	〃
〃	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	〃	〃	ヤエヤマノコギリクワガタ	〃
〃	シロスジカミキリ	〃	〃	チャイロマルバネクワガタ	〃
〃	ムネホシシロカミキリ	〃	〃	コクワガタ	〃
〃	オオシロカミキリ	〃	〃	スジクワガタ	〃
〃	セミスジコブヒゲカミキリ	〃	〃	リュウキュウコクワガタ	〃
〃	マルバネコブヒゲカミキリ	〃	〃	アマミシカクワガタ	〃
〃	ヒメオビアラゲカミキリ	〃	〃	アカアシクワガタ	〃
〃	ドイカミキリ	〃	〃	ヒメオオクワガタ	〃
〃	スジマダラモモフトカミキリ	〃	〃	ヒラタクワガタ	〃
〃	トゲバカミキリ	〃	〃	スジプトヒラタクワガタ	〃
〃	アトモンマルケシカミキリ	〃	〃	オオクワガタ	〃
〃	シラオビゴマフケシカミキリ	〃	オサムシ	オオオサムシ	高橋 篤美
〃	クロオビトゲムネカミキリ	〃	〃	ツクシオサムシ(亜種)	〃
〃	ハンノアオカミキリ	〃	〃	ヒメオサムシ	〃
〃	ニセシラホシカミキリ	〃	〃	カラツオサムシ(品種)	〃
〃	ラミーカミキリ	〃	〃	ツシマオサムシ(亜種)	〃
〃	ヒゲナガヒメルリカミキリ	〃	〃	イキオサムシ(〃)	〃
〃	キモンカミキリ	〃	〃	セアカオサムシ	〃
〃	カスガキモンカミキリ	〃	〃	マイマイカブリ	〃
〃	シラホシカミキリ	〃	〃	エゾマイマイカブリ(亜種)	〃
〃	キバネニセリングカミキリ	〃	直 翅 目		
〃	セミスジニセリングカミキリ	〃	カマキリ	チョウセンカマキリ	市場 利哉
〃	キクスイカミキリ	〃	〃	オオカマキリ	〃
〃	ヨツキボシカミキリ	〃	〃	ハラビロカマキリ	〃
〃	ヘリグロリングカミキリ	〃	〃	コカマキリ	〃
〃	ヒメリングカミキリ	〃	バッタ	クルマバッタ	〃
〃	ニセリングカミキリ	〃	〃	トノサマバッタ	〃
〃	リングカミキリ	〃	〃	ショウリョウバッタ	〃
〃	ソボリングカミキリ	〃	〃	クルマバッタ	〃
クワガタムシ	マダラクワガタ	〃	〃	オンブバッタ	〃
〃	ツヤハダクワガタ	〃	半 翅 目		
〃	マメクワガタ	〃	セ	ニイニイゼミ	市場 利哉
〃	ルイスツノヒョウタンクワガタ	〃	〃	アブラゼミ	〃
〃	ルリクワガタ	〃	〃	エゾゼミ	〃
〃	ホソツヤルリクワガタ	〃	〃	クマゼミ	〃
〃	ニセコルリクワガタ	〃	〃	ミンミンゼミ	〃
〃	オニクワガタ	〃	〃	ヒグラシ	〃
〃	ネプトクワガタ	〃	〃	ハルゼミ	〃

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名	
セ	ミ	エゾハルゼミ	市場 利哉	エゾトンボ	オオヤマトンボ	市場 利哉
〃	〃	ヒメハルゼミ	〃	ヤンマ	サラサヤンマ	〃
〃	〃	ツクツクボウシ	〃	〃	コシボソヤンマ	〃
蜻蛉目			〃	〃	ミルンヤンマ	〃
イトトンボ	コフキヒメイトトンボ	市場 利哉	〃	〃	ネアカヨシヤンマ	〃
〃	ホソミイトトンボ	〃	〃	〃	アオヤンマ	〃
〃	キイトトンボ	〃	〃	〃	カトリヤンマ	〃
〃	ベニイトトンボ	〃	〃	〃	ヤブヤンマ	〃
〃	アジアイトトンボ	〃	〃	〃	クロスジギンヤンマ	〃
〃	アオモンイトトンボ	〃	〃	〃	ギンヤンマ	〃
〃	クロイトトンボ	〃	〃	〃	オオギンヤンマ	〃
〃	セスジイトトンボ	〃	トンボ	〃	ハラビロトンボ	〃
〃	オオイトトンボ	〃	〃	〃	シオカラトンボ	〃
モノサシトンボ	グンバイトンボ	〃	〃	〃	シオヤトンボ	〃
〃	モノサシトンボ	〃	〃	〃	オオシオカラトンボ	〃
アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ	〃	〃	〃	ベッコウトンボ	〃
〃	アオイトトンボ	〃	〃	〃	ヨツボシトンボ	〃
〃	オオアオイトトンボ	〃	〃	〃	ハッチョウトンボ	〃
〃	コバネアオイトトンボ	〃	〃	〃	ショウジョウトンボ	〃
カワトンボ	アオハダトンボ	〃	〃	〃	コフキトンボ	〃
〃	ハグロトンボ	〃	〃	〃	タイリクアカネ	〃
〃	ミヤマカワトンボ	〃	〃	〃	ミヤマアカネ	〃
〃	ニシカワトンボ	〃	〃	〃	ナツアカネ	〃
〃	オオカワトンボ	〃	〃	〃	アキアカネ	〃
ムカシトンボ	ムカシトンボ	〃	〃	〃	ヒメアカネ	〃
ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	〃	〃	〃	マユタテアカネ	〃
オニヤンマ	オニヤンマ	〃	〃	〃	リスアカネ	〃
サナエトンボ	ミヤマサナエ	〃	〃	〃	ノシメトンボ	〃
〃	ナゴヤサナエ	〃	〃	〃	ネキトンボ	〃
〃	ヤマサナエ	〃	〃	〃	キトンボ	〃
〃	キイロサナエ	〃	〃	〃	チョウトンボ	〃
〃	オグマサナエ	〃	〃	〃	ウスバキトンボ	〃
〃	タベサナエ	〃	〃	〃	ハネビロトンボ	〃
〃	ダヒドサナエ	〃	鱗翅目(蛾類)			
〃	クロサナエ	〃	コウモリガ	シロテンコウモリ	市場 利哉	
〃	ヒメクロサナエ	〃	〃	キマダラコウモリ	〃	
〃	ヒメサナエ	〃	マガリガ	ヒゲナガガの一種	〃	
〃	アオサナエ	〃	ボクトウガ	ゴマフボクトウ	〃	
〃	オナガサナエ	〃	ハマキガ	ピロードハマキ	〃	
〃	コオニヤンマ	〃	〃	マツアトキハマキ	〃	
〃	ウチワヤンマ	〃	〃	チャハマキ	〃	
〃	タイワンウチワヤンマ	〃	〃	ヨモギネムシガ	〃	
エゾトンボ	トラフトトンボ	〃	ミノガ	オオミノガ	〃	
〃	タカネトンボ	〃	スカシバ	コスカシバ	〃	
〃	コヤマトンボ	〃	〃	ハチマガイスカシバ	〃	

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
スカシバ	オオモブトスカシバ	市場 利哉	カキバガ	フタテンシロカギバ	市場 利哉
ハマキモドキ	コウゾハマモドキ	〃	〃	ウスギヌカギバ	〃
マダラガ	ミノウスバ	〃	〃	スカシカギバ	〃
〃	サツマニシキ	〃	〃	オキナワカギバ	〃
イラガ	ヒロヘリアオイラガ	〃	〃	アカウラカギバ	〃
マドガ	マドガ	〃	オオカギバガ	オオカギバ	〃
〃	アカジママドガ	〃	〃	ギンスジカギバ	〃
メイガ	ツトガ	〃	トガリバガ	ナガトガリバ	〃
〃	モンキシロノメイガ	〃	〃	モントガリバ	〃
〃	シロオビノメイガ	〃	〃	カワムラトガリバ	〃
〃	アヤナミノメイガ	〃	〃	キマダラトガリバ	〃
〃	シロモンノメイガ	〃	〃	オオアヤトガリバ	〃
〃	シロヒトモンノメイガ	〃	シャクガ	エグリトガリシャク	〃
〃	クロスジノメイガ	〃	〃	コアヤシャク	〃
〃	モモノゴマダラノメイガ	〃	〃	ウスアオシャク	〃
〃	シロテンキノメイガ	〃	〃	アシトチズモンアオシャク	〃
〃	キバラノメイガ	〃	〃	キマエアオシャク	〃
〃	クロズノメイガ	〃	〃	ヒメシロフアオシャク	〃
〃	クロヘリキノメイガ	〃	〃	クスアオシャク	〃
〃	オオキノメイガ	〃	〃	ヨツモンマエジロアオシャク	〃
〃	クロスジキンノメイガ	〃	〃	ヨツテンアオシャク	〃
〃	シロハラノメイガ	〃	〃	クロモンアオシャク	〃
〃	コヨツメノメイガ	〃	〃	フタナミトビヒメシャク	〃
〃	ワタノメイガ	〃	〃	ホソバナミシャク	〃
〃	クロヘリノメイガ	〃	〃	モンキナミシャク	〃
〃	マエアカスカシノメイガ	〃	〃	ツマキシロナミシャク	〃
〃	ヒメシロノメイガ	〃	〃	セスジナミシャク	〃
〃	ツゲノメイガ	〃	〃	オオハガタナミシャク	〃
〃	クワノメイガ	〃	〃	ピロードナミシャク	〃
〃	ツマグロシロノメイガ	〃	〃	シロシトビイロナミシャク	〃
〃	キベリハネボソノメイガ	〃	〃	フタクロテンナミシャク	〃
〃	マメノメイガ	〃	〃	ハネナガナミシャク	〃
〃	モンキクロノメイガ	〃	〃	ナカジロナミシャク	〃
〃	マエベニノメイガ	〃	〃	フタホシシロエダシャク	〃
〃	フキノメイガ	〃	〃	バラシロエダシャク	〃
〃	マダラミズメイガ	〃	〃	フタスジエダシャク	〃
〃	キオビミズメイガ	〃	〃	クロハグルマエダシャク	〃
〃	ナカムラサキフトメイガ	〃	〃	フタテンオエダシャク	〃
〃	アオフトメイガ	〃	〃	ウスキオエダシャク	〃
〃	フタスジシマメイガ	〃	〃	スカシエダシャク	〃
〃	アカシマメイガ	〃	〃	ツマジロエダシャク	〃
〃	ウスオビトガリメイガ	〃	〃	アカエダシャク	〃
〃	ナシアカスジマダラメイガ	〃	〃	トンボエダシャク	〃
カキバガ	マエキカギバ	〃	〃	キオビゴマダラエダシャク	〃
〃	ギンモンカギバ	〃	〃	クロフオオシロエダシャク	〃

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
シャクガ	クロフシロエダシャク	市場 利哉	スズメガ	ホソバスズメ	市場 利哉
〃	キエダシャク	〃	〃	トビイロスズメ	〃
〃	クロクモエダシャク	〃	〃	モモスズメ	〃
〃	ルリモンエダシャク	〃	〃	クチバスズメ	〃
〃	フトスジエダシャク	〃	〃	オオシモフリスズメ	〃
〃	ナカウスエダシャク	〃	〃	ギンボシスズメ	〃
〃	ウスバミスジエダシャク	〃	〃	ウンモンズズメ	〃
〃	コヨツメエダシャク	〃	〃	ウチスズメ	〃
〃	ヨモギエダシャク	〃	〃	エゾスズメ	〃
〃	ホシミスジエダシャク	〃	〃	スキバホウジャク	〃
〃	ミヤマツバメエダシャク	〃	〃	オオスカシバ	〃
〃	トビモンオオエダシャク	〃	〃	クルマスズメ	〃
〃	ウスイロオオエダシャク	〃	〃	ハネナガブドウスズメ	〃
〃	ニッコウエダシャク	〃	〃	ブドウスズメ	〃
〃	ウスクモエダシャク	〃	〃	ホシヒメホウジャク	〃
〃	オオマエキトビエダシャク	〃	〃	ヒメクロホウジャク	〃
〃	エグリヅマエダシャク	〃	〃	ホシホウジャク	〃
〃	モンシロツマキリエダシャク	〃	〃	フリッツエホウジャク	〃
〃	ミスジツマキリエダシャク	〃	〃	ベニスズメ	〃
〃	ツマキウスキエダシャク	〃	〃	キイロスズメ	〃
〃	モミジツマキリエダシャク	〃	〃	コスズメ	〃
〃	ウラベニエダシャク	〃	〃	セスジスズメ	〃
〃	ヒメウコンエダシャク	〃	〃	ピロードスズメ	〃
〃	ウスキツバメエダシャク	〃	〃	ミスジピロードスズメ	〃
フタオガ	キンモンガ	〃	シャチホコガ	ギンモンズズメモドキ	〃
〃	クロホシフタオ	〃	〃	シャチホコガ	〃
イカリモンガ	イカリモンガ	〃	〃	タツカモクメシャチホコ	〃
カレハガ	ホシカレハ	〃	〃	ホシナカグロモクメシャチホコ	〃
〃	カレハガ	〃	〃	アオシャチホコ	〃
〃	オビカレハ	〃	〃	パイバラシロシャチホコ	〃
〃	マツカレハ	〃	〃	ホソバシャチホコ	〃
〃	ヨシカレハ	〃	〃	ツマキシヤチホコ	〃
オビガ	オビガ	〃	〃	モンクロシャチホコ	〃
カイコガ	クワガ	〃	〃	ヘリスジシャチホコ	〃
イボタガ	イボタガ	〃	〃	アオバシャチホコ	〃
ヤママユガ	シンジュサン	〃	〃	クビワシャチホコ	〃
〃	ヤママユ	〃	〃	クロスジシャチホコ	〃
〃	クスサン	〃	〃	セダカシャチホコ	〃
〃	オオミズアオ	〃	〃	キシヤチホコ	〃
スズメガ	エピガラスズメ	〃	〃	オオエグリシャチホコ	〃
〃	メンガタスズメ	〃	〃	トビギンボシシャチホコ	〃
〃	エゾシモフリスズメ	〃	〃	ツマアカシャチホコ	〃
〃	シモフリスズメ	〃	ドクガ	リンゴドクガ	〃
〃	サザナミスズメ	〃	〃	カシワマイマイ	〃
〃	アジアホソバスズメ	〃	〃	ゴマフリドクガ	〃

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
ドクガ	ドクガ	市場 利哉	ヤガ	ムラサキツマキリョトウ	市場 利哉
ヒトリガ	ハガタベニコケガ	〃	〃	マグラツマキリョトウ	〃
〃	ベニヘリコケガ	〃	〃	コマルモンシロガ	〃
〃	ハガタキコケガ	〃	〃	フサヤガ	〃
〃	スジベニコケガ	〃	〃	ネジロキノカワガ	〃
〃	スジモンヒトリ	〃	〃	シンジュキノカワガ	〃
〃	オビヒトリ	〃	〃	キノカワガ	〃
〃	クロフシロヒトリ	〃	〃	ツクシアオリング	〃
〃	アカハラゴマダラヒトリ	〃	〃	トビイロリング	〃
〃	キハラゴマダラヒトリ	〃	〃	ハイイロリング	〃
〃	シロヒトリ	〃	〃	フタオビコヤガ	〃
〃	サラサヒトリ	〃	〃	フタトガリコヤガ	〃
〃	モンシロモドキ	〃	〃	オオキクギンウワバ	〃
カノコガ	キハダカノコ	〃	〃	ギンスジキンウワバ	〃
ヤガ	ウスベリケンモン	〃	〃	セアカキンウワバ	〃
〃	リンゴケンモン	〃	〃	イネキンウワバ	〃
〃	ナシケンモン	〃	〃	キクキンウワバ	〃
〃	シマケンモン	〃	〃	ミツモンキンウワバ	〃
〃	イチモジキノコヨトウ	〃	〃	ウリキンウワバ	〃
〃	シロスジキノコヨトウ	〃	〃	ベニシタバ	〃
〃	ツメクサガ	〃	〃	シロシタバ	〃
〃	タマナヤガ	〃	〃	コシロシタバ	〃
〃	カブラヤガ	〃	〃	ゴマシオシタバ	〃
〃	クロクモヤガ	〃	〃	キシタバ	〃
〃	ハイイロキシタヤガ	〃	〃	コガタキシタバ	〃
〃	クロギシギシヤガ	〃	〃	アシプトクチバ	〃
〃	ヨトウガ	〃	〃	ホソオビアシプトクチバ	〃
〃	シロシタヨトウ	〃	〃	ウンモンクチバ	〃
〃	アカバキリガ	〃	〃	ニセウンモンクチバ	〃
〃	フタオビキョトウ	〃	〃	モンシロムラサキクチバ	〃
〃	マダラキョトウ	〃	〃	ムクゲコノハ	〃
〃	スジグロキョトウ	〃	〃	フクラスズメ	〃
〃	マメチャイロキョトウ	〃	〃	オスグロトモエ	〃
〃	アワヨトウ	〃	〃	シロスジトモエ	〃
〃	クサシロキョトウ	〃	〃	オオトモエ	〃
〃	キバラモクメキリガ	〃	〃	モクメクチバ	〃
〃	ミツボシキリガ	〃	〃	カクモンキシタバ	〃
〃	モクメヨトウ	〃	〃	アカエグリバ	〃
〃	シロスジアオヨトウ	〃	〃	ヒメアケビコノハ	〃
〃	ハスモンヨトウ	〃	〃	アケビコノハ	〃
〃	ヒメサビスヨトウ	〃	〃	ウスヅマクチバ	〃
〃	シロモンオビヨトウ	〃	〃	オオシロテンクチバ	〃
〃	カラスヨトウ	〃	〃	ナカジロシタバ	〃
〃	アオバセダカヨトウ	〃	〃	ナカジロアツバ	〃
〃	ベニモンヨトウ	〃	〃	クロキシタバアツバ	〃

森林と文化展

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
トラガ	トビイロトラガ		ジャノメチョウ	ヒメジャノメ	佐賀県立博物館
鱗翅目(蝶類)			〃	キマダラヒカゲ	〃
アゲハチョウ	アオスジアゲハ	佐賀県立博物館	〃	クロヒカゲ	〃
〃	ミカドアゲハ	〃	〃	ジャノメチョウ	〃
〃	ジャコウアゲハ	〃	〃	ウラナミジャノメ	〃
〃	キアゲハ	〃	〃	ヒメウラナミジャノメ	〃
〃	アゲハ	〃	〃	クロコノマチョウ	〃
〃	オナガアゲハ	〃	〃	ウスイロコノマチョウ	〃
〃	クロアゲハ	〃	セセリチョウ	ミヤマセセリ	〃
〃	モンキアゲハ	〃	〃	ダイミョウセセリ	〃
〃	ナガサキアゲハ	〃	〃	アオバセセリ	〃
〃	ミヤマカラスアゲハ	〃	〃	イチモンジセセリ	〃
〃	カラスアゲハ	〃	〃	オオチャバネセセリ	〃
シロチョウ	キチョウ	〃	〃	クロセセリ	〃
〃	ツマグロキチョウ	〃	〃	チャバネセセリ	〃
〃	モンキチョウ	〃	〃	ミヤマチャバネセセリ	〃
〃	ウラナミシロチョウ	〃	〃	ホソバセセリ	〃
〃	ツマキチョウ	〃	〃	キマダラセセリ	〃
〃	モンシロチョウ	〃	〃	コチャバネセセリ	〃
〃	スジグロシロチョウ	〃	〃	ヒメキマダラセセリ	〃
〃	エゾスジグロシロチョウ	〃	タテハチョウ	イシガケチョウ	〃
マダラチョウ	カバマダラ	〃	〃	ウラギンスジヒョウモン	〃
〃	アサギマダラ	〃	〃	ウラギンヒョウモン	〃
テングチョウ	テングチョウ	〃	〃	ミドリヒョウモン	〃
シジミチョウ	ムラサキシジミ	〃	〃	クモガタヒョウモン	〃
〃	ムラサキツバメ	〃	〃	メスグロヒョウモン	〃
〃	ウラナミシジミ	〃	〃	ツマグロヒョウモン	〃
〃	アカシジミ	〃	〃	スミナガシ	〃
〃	ミズイロオナガシジミ	〃	〃	メスアカムラサキ	〃
〃	ツバメシジミ	〃	〃	イチモンジチョウ	〃
〃	タイワンツバメシジミ	〃	〃	コミスジ	〃
〃	ヤマトシジミ	〃	〃	サカハチョウ	〃
〃	シルビアシジミ	〃	〃	キタテハ	〃
〃	キリシマミドリシジミ	〃	〃	ルリタテハ	〃
〃	トラフシジミ	〃	〃	タテハモドキ	〃
〃	クロツバメシジミ	〃	〃	ゴマダラチョウ	〃
〃	ルリシジミ	〃	〃	コムラサキ	〃
〃	スギタニルリシジミ	〃	〃	ヒオドシチョウ	〃
〃	サツマシジミ	〃	〃	アカタテハ	〃
〃	コツバメ	〃	〃	ヒメアカタテハ	〃
〃	ゴイシシジミ	〃	セセリチョウ	チャマダラセセリ	吉田喜美明
〃	ベニシジミ	〃	〃	コウトウシロシタセセリ	〃
〃	クロシジミ	〃	〃	タイワンアオバセセリ	〃
〃	ウラギンシジミ	〃	〃	ギンイチモンジセセリ	〃
ジャノメチョウ	コジャノメ	〃	〃	カラフトカネキマダラセセリ	〃

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
セセリチョウ	タカネキマダラセセリ	吉田喜美明	マダラチョウ	スジグロカバマダラ	吉田喜美明
〃	ネツタイアカセセリ	〃	〃	カバマダラ	〃
〃	オオシロモンセセリ	〃	タテハチョウ	ホソバヒョウモン	〃
〃	バナナセセリ	〃	〃	アサヒヒョウモン	〃
〃	テツイロピロウドセセリ	〃	〃	オオイチモンジ	〃
アゲハチョウ	ウスバシロチョウ	〃	〃	ミスジチョウ	〃
〃	ギフチョウ	〃	〃	オオミスジ	〃
〃	ヒメギフチョウ	〃	〃	ウスイロヒョウモンモドキ	〃
〃	シロオビアゲハ	〃	〃	ヒョウモンモドキ	〃
シロチョウ	ヒメシロチョウ	〃	〃	エルタテハ	〃
〃	ホシボシキチョウ	〃	〃	キベリタテハ	〃
〃	ヤマキチョウ	〃	〃	クジャクチョウ	〃
〃	スジボソヤマキチョウ	〃	〃	コヒオドシ	〃
〃	ミヤマモンキチョウ	〃	〃	アオタテハモドキ	〃
〃	ウラナミシロチョウ	〃	〃	コノハチョウ	〃
〃	ウスキシロチョウ	〃	〃	メスアカムラサキ	〃
〃	ツマベニチョウ	〃	〃	リュウキュウムラサキ	〃
〃	クモマツマキチョウ	〃	〃	アカホシゴマダラ	〃
〃	タイワンシロチョウ	〃	〃	オオムラサキ	〃
〃	ミヤマシロチョウ	〃	〃	フタオチョウ	〃
〃	エゾシロチョウ	〃	〃	ヤエヤマイチモンジチョウ	〃
〃	タイワンモンシロチョウ	〃	ジャノメチョウ	ヤエヤマウラナミジャノメ	〃
シジミチョウ	ルーミスシジミ	〃	〃	マサキウラナミジャノメ	〃
〃	ウラゴマダラシジミ	〃	〃	ウラナミジャノメ	〃
〃	チョウセンアカシジミ	〃	〃	ダイセツタカネヒカゲ	〃
〃	ウラキンシジミ	〃	〃	タカネヒカゲ	〃
〃	ウラミスジシジミ	〃	〃	エゾツマジロウラジャノメ	〃
〃	ウラクロシジミ	〃	〃	サトキマダラヒカゲ	〃
〃	ミドリシジミ	〃	〃	ウスイロコノマチョウ	〃
〃	メスアカミドリシジミ	〃	外国産		
〃	アイノミドリシジミ	〃	アゲハチョウ	ゴクラクトリバネチョウ	吉田喜美明
〃	ヒサマツミドリシジミ	〃	〃	ロスチャイルドトリバネチョウ	〃
〃	フジミドリシジミ	〃	〃	プレミアムストリバネチョウ	〃
〃	クロミドリシジミ	〃	〃	クロエサストリバネチョウ	〃
〃	ベニモンカラスシジミ	〃	〃	アオアメリカウスバシロチョウ	〃
〃	イワカワシジミ	〃	〃	ミヤマウスバシロチョウ	〃
〃	ルリウラナミシジミ	〃	〃	クロテンウスバシロチョウ	〃
〃	ハマヤマトシジミ	〃	〃	オオアカホシウスバシロチョウ	〃
〃	ジョウザンシジミ	〃	〃	ギフチョウ	〃
〃	ゴマシジミ	〃	〃	コウトウキシタアゲハ	〃
〃	オオゴマシジミ	〃	〃	オオオナガタイマイ	〃
〃	カバイロシジミ	〃	〃	コモンタイマイ	〃
〃	オオルリシジミ	〃	〃	ミズアオマダラタイマイ	〃
〃	ヒメシジミ	〃	〃	アゲシラウスオナガタイマイ	〃
〃	カラフトルリシジミ	〃	〃	コロンブスオナガタイマイ	〃

科名	種名	所蔵者名	科名	種名	所蔵者名
アゲハチョウ	オビモンアゲハ	吉田喜美明	タテハチョウ	ベニアオイチモンジ	吉田喜美明
〃	ベニシロアゲハ	〃	〃	ヤンキーコヒオドシ	〃
〃	ディフォブフアゲハ	〃	〃	カリフォルニアコオドシ	〃
〃	オオリリオビアゲハ	〃	〃	アルテニスタテハ	〃
〃	トルクアトウスアゲハ	〃	〃	イタリアギンボシヒョウモン	〃
〃	フトオビアゲハ	〃	〃	シロタテハ	〃
〃	アリアラティスアゲハ	〃	〃	サカハチヨウ	〃
〃	マディアスアゲハ	〃	テングチョウ	アメリカテングチョウ	〃
〃	オオサカハチアゲハ	〃	マダラチョウ	グリオサマダラチョウ	〃
〃	クスノキアゲハ	〃	〃	シロモンルリマダラ	〃
〃	エウリメドシアゲハ	〃	〃	ウスコモンアサギマダラ	〃
〃	トラフアゲハ	〃	〃	オオカバマダラ	〃
〃	フトオビトラフアゲハ	〃	シロチョウ	ヒイロツマベニチョウ	〃
〃	アメリカキアゲハ	〃	〃	アサギシロチョウ	〃
〃	トロイスアゲハ	〃	〃	Delias sp.	〃
〃	シナクロアゲハ	〃	〃	オオアサギシロチョウ	〃
〃	アサクラアゲハ	〃	〃	アスパシアマダラシロチョウ	〃
〃	ミヤマカラスアゲハ	〃	〃	ツマベニシロチョウ	〃
〃	Papillio sp.	〃	〃	Delias sp.	〃
〃	Troides sp.	〃	〃	ベルニケシロチョウ	〃
モルフオチョウ	ディグミアモルフオ	〃	〃	クロリスシロチョウ	〃
タテハ	ムレナタテハ	〃	〃	カリブソシロチョウ	〃
〃	アサギタテハ	〃	〃	ファリスシロチョウ	〃
〃	オリオンタテハ	〃	〃	サラツマキシロチョウ	〃
〃	クリメナタテハ	〃	〃	スジモンシロチョウ	〃
〃	ミツボシタテハ	〃	〃	オオアメリカモンキチョウ	〃
〃	クロカリヌタテハ	〃	〃	アメリカモンキチョウ	〃
〃	テレネスタテハ	〃	〃	イシガケシロチョウ	〃
〃	シロムラサキ	〃	〃	エゾスジグロシロチョウ	〃
タテハチョウ	ウシュリータテハ	〃	〃	クロテンシロチョウ	〃
〃	オナガフタオ	〃	〃	クモマツマキチョウ	〃
〃	アオフタオ	〃	〃	タイワンモンシロチョウ	〃
〃	ヒアルバスタテハ	〃	〃	タイワンシロチョウ	〃
〃	エリウスタテハ	〃	〃	エゾシロチョウ	〃
〃	ラモラタテハ	〃	ジャノメチョウ	フェゲアジャノメ	〃
〃	アメリカタテハ	〃	〃	アルツサジャノメ	〃
〃	アケロイアタテハ	〃	〃	イネスシロジャノメ	〃
〃	スカシタテハ	〃	〃	ブリエウリジャノメ	〃
〃	ラモラタテハ	〃	シジミチョウ	Orthomiella sp.	〃
〃	Charaxes sp.	〃	〃	Heodes sp.	〃
〃	サザナミタテハ	〃	〃	Plebicule sp.	〃
〃	アメリカイチモンジ	〃	〃	Lysadra coridon	〃

脊椎動物標本〔展示資料編6〕

分類	資料名	所蔵者名	分類	資料名	所蔵者名
哺乳類	アカネズミ	熊本営林局	鳥類	コウライウグイス	北九州自然史博物館
〃	ハタネズミ	〃	〃	チョウゲンボウ	熊本県鳥獣保護センター
〃	ヒメネズミ	〃	〃	ハツカン	〃
〃	モグラ	〃	〃	ヤマシギ	〃
〃	ヤマネ	〃	〃	ミソサザイ	〃
〃	キュウシュウノウサギ	熊本市立博物館	〃	クマタカ	〃
〃	ホンドタヌキ	〃	哺乳類	イノシシ(白化個体)	〃
〃	ホンドキツネ	〃	〃	イタチ	〃
鳥類	ゴジュウカラ	〃	〃	オオカミ	北九州自然史博物館
〃	コシジロヤマドリ	〃	〃	イノシシ	〃
〃	サンコウチョウ	〃	〃	ニホンジカ	〃
〃	ハチクマ	北九州自然史博物館	〃	リス	〃
〃	ハイタカ	〃	〃	ホンドイタチ	〃
〃	ホトトギス	〃	鳥類	カササギ	佐賀県立博物館
〃	アオゲラ	〃	〃	キュウシュウフクロウ	〃
〃	ヤマドリ	〃	〃	アカショウビン	〃
〃	キジ	〃	〃	ヤマセミ	〃
〃	イヌワシ	〃	〃	キジ	〃

III 森と人々の暮らし〔パネル編3〕

1. 森の暮らし					
№	タイトル	内 容	№	タイトル	内 容
1	農山村の生産暦	農業と林業の労働期間における季節的關係や、製炭期に季節性のあることなどがわかる。	3	枝打ち	節のない真つぐな品質の良い木に育てるため、一本梯子を使って枝打ち作業を行う。
2	植 林	県内一の人工林を持つ七山村は今、木材価格の低迷に伴い深刻な問題をかかえている。	4	土曳き	機械化の進む以前に盛んに行われた木材搬出方法で、牛や馬にソリを曳かせた。

No	タイトル	内 容	No	タイトル	内 容
5	山の神	伊万里市大坪町に鎮座する今岳神社では、五穀豊穡への御礼として山の神祭を行う。			
6	フラ渡し	今岳大権現の分霊を引き渡す祭事で、大坪町古賀部落では12月14日の夜にとり行う。	6	油 絞 り	ツバキの実を粉砕し、蒸し上げたものをフネで圧縮して油を搾り取る。食用・薬用あるいは髪油として利用される他、搾りかすは肥料や洗髪用として利用されるなど広い用途を持つ。
7	薪の利用	ガスや電気の普及する以前、薪は炊事・暖房・照明に重宝され、特に藩政時代の佐賀に於いては寮用として重要視された。	7	木 蠟	槲の実を粉砕し、粉を蒸して搾る。これが木蠟の製法である。現在では「搾る」という製法から「溶解して蠟分だけを抽出する」という製法に変化し、得られる蠟の分量も増加した。
8	炭 焼 き	戦後のエネルギー革命以前、木材と並ぶ重要な林産物として各地で木炭が製造された。	3. バイオテクノロジー		
9	狩 猟	原始・古代から中世・近世への経過は狩猟の目的を食糧獲得から娯楽的なものへと変化させ、今や保護に重点を於いた狩猟法が定められている。	1	植物の突然変異体の作出	人為的に突然変異体を作り作物育種に利用する。
10	鳥獣供養塔	鳥獣供養塔とは、殺傷した動物の災いを避け、その霊を弔うために造立された碑である。県内では神埼郡三瀬村宿のものが最古とされている。	2	ニンニクの突然変異体	メチルニトロソウレアで処理したニンニクの茎頂を培養。
2. 森の利用			3	薬培養の育種的利用	薬(おしべ)を培養して、花粉粒から植物体をつくる。
1	竹 細 工	竹は木と同様に身近にある素材として古くから生活と深いかわりを持ち、その材質は光沢の美しさと共に今でも愛され広く利用されている。	4	イネの薬培養	イネの成熟した薬(やく)を培養してイネをつくる。
2	浮 立 面	佐賀の代表的民俗芸能・面浮立は、踊り手の鬼面に特徴づけられ、その面相にはノミ1本にかけた作家の精神力さえ感じられる。	5	半数体利用育種法	半数体(薬培養)利用の育種法と交雑育種法の比較。
3	樽	細長く小割りした板を円筒形に並べて底板を入れ、箍で締めつけ、蓋をはめ込んだ木製の容器である。醸造業の発達に伴い普及してきたという歴史的背景をもつ。	6	組み換えDNA	遺伝子(DNA)の一部を組み換えて、新しい生物をつくる。
4	独 楽	木製素材をロクロで回転させ刃物をあてがうと丸い左右対称の形をした木地製品が出来上がる。独楽もその1つで、手挽きだったロクロも現在では機械化され大量生産されている。	7	ミカン類の組織培養	植物の全能性を利用して、組織培養でミカンの新品種をつくる。
5	鍛 冶 屋	火床の中で木炭に風を送り火をおこし、そこで鉄を赤め金敷	8	胚軸培養による再生	ミカンの胚軸を培養してカルスをつくり、植物体を再生。
			9	プロトプラスト	裸の細胞(プロトプラスト)をつくり、これから植物体を再生。
			10	裸の細胞と植物体再生	プロトプラストからカルス、胚、最後に植物体をつくる。
			11	細胞融合1	異なった品種の細胞を融合して新しい品種のミカンをつくる。
			12	細胞融合2	電気パルスによりキノコの細胞を融合して新品種をつくる。
			13	受精卵移植技術	牛の受精卵を分割し、別の牛に移植し、良質牛を育てる。
			14	マツノザイセンチュウ	マツ枯れの原因となるマツノザイセンチュウの生活史。
			15	天敵による害虫防除	昆虫に寄生する線虫により昆虫を殺して害虫防除をする。

III 森と人々の暮らし [展示資料編7]

1. 森の暮らし					
分類	資料名	所蔵者名	分類	資料名	所蔵者名
土 曳 き	カン(3)	小川鍛冶屋 盛田 二六	竹 細 工 浮 立 面	編み目サンプル (9種類) 竹細工製品(2)	小森 恵吾
	カン打ち斧・カクマワシ 牛のわらじ	// 小川鍛冶屋 佐賀県林業 試験場		製作用具一式 (ノミ19本) 浮立面製作工程品 (4工程) 浮立面 (男面1・女面2) 浮立面 (女面2)	
木 挽 き	トビ 牛の下鞍 引き木 木馬(2)	// 嘉村 政登 盛田 二六 佐賀県林業 試験場	樽	製作用具一式(18) 2斗樽製作工程品 (3工程) 樽製品(3) 竹輪・ガワ板 鹽桶 (大・中・小)	原田製樽所
	二人縦引き鋸・二人横引き鋸 フクロヤ・改良鋸 ヤ・カスガイ・根切り斧・マサカリ 横挽き鋸・木挽き鋸 「つう渡し」ビデオテープ	嘉村 政登 佐賀県林業 試験場 小川鍛冶屋		製作用具一式(13) 飾り独楽製作工程品(4工程) 製品 (平独楽56・坊主独楽 56・飾り独楽2)	山田キクヨ 隈本木工所
山 の 神		川村初太郎 伊万里有線テ レビ生活協同 組合	鍛 冶	製作用具一式(8) 斧製作工程品 (4工程) 鍛冶製品(1)	小川鍛冶屋
薪の利用	薪	中里太郎右 衛門齋	油 絞 り	製作用具(3)白・杵・モシキ・フ ネ・ヤ・ヨコ槌製品(ツバキ油)	芹田 カヨ
炭 焼 き	木炭材及び木炭サンプル (60種)	佐賀県林業 試験場	木 蠟	蠟収穫用具 (蠟ちぎり袋) 木蠟製作用具(5)大釜・モネ 白・杵・ブリコ・うめ皿・チキ リ・木蠟賞状・木蠟代金帳	牟田 汪
2. 森の利用					
竹 細 工	製作用具一式(13) ザル製作工程品 (5工程)	栗山 商店		蠟の束(伊吉・昭和福)・生蠟・ 晒し蠟・蠟皿	佐賀製蠟株 式会社

IV たかめよう緑の力 [パネル編4]

No	タイトル	内 容	No	タイトル	内 容
1	全国植樹祭 の 歩 み	昭和25年、第1回山梨大会から昭 和62年佐賀大会まで			与賀神社の楠・青幡神社の楠 海童神社の楠・小川内の杉 唐泉山の椎の自然林 加部島暖地性植物群落 切木のボタン 普明寺のキンモクセイ
2	みんな で 緑 を	第38回全国植樹祭記念の緑の歌 の楽符と歌詞			
3	シンボル マ ー ク	「たかめよう緑の力」の標語と 「全国植樹祭」のシンボルマーク			
4	市町村の 木 と 花	全国植樹祭を記念して制定され た県内市町村の木と花	6	緑の少年団	佐賀県内に組織された緑の少年 団、団旗と名称
5	国・県指定の 天然記念物	虹の松原	7	森林の活用	森林のはたらし「水をたくわえ る」「騒音を緩和する」など
		佐賀城跡の楠群	8	森林浴の森	日本の森林浴の森100選の紹介。 虹の松原・猪堀の滝
		白角折神社の楠	9	後継者の 養 成	伊万里農林高校の林業教育「授 業」「実習」風景
		千石山サザンカ自生北限 えひめあやめの自生南限 黒髪山のカネコシダ 有田のイチヨウ・嬉野の大茶樹 川古のクス・広沢寺のソテツ	10	九州の林業 関係高校	九州各県にある林業科をもつ農 業高校の紹介

4. 企画展ならびにその他の展覧会 昭和62年度

展 覧 会 名	会 期	主 催
特別企画 森林と文化展	5/2～5/31	佐賀県立博物館 佐賀県、佐賀県教育委員会 第38回 全国植樹祭佐賀県実行委員会
第37回 佐賀県児童生徒理科 作 品 展	9/19～9/25	佐賀県理科教育振興会 佐賀県立博物館
第7回 よみがえれ佐賀展	10/3～10/11	佐賀市、佐賀市教育委員会 佐賀青年会議所、佐賀新聞社 佐賀県機械金属工業会連合会
農協共済小中学生 第13回 交通安全ポスター展 第23回 書 道 展	10/14～10/18	佐賀県共済農業協同組合連合会 佐賀県立博物館
第37回 佐賀県美術展覧会	10/31～11/8	佐賀県、佐賀県教育委員会 佐賀県立博物館、佐賀県立美術館
第11回 佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展	11/15～11/23	佐賀県教育委員会、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会、佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県高等学校書道研究会

5. 博物館観覧状況調べ 昭和62年度

常 設 展	個 人			団 体		
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小
佐賀県の歴史と文化	3,856	314	1,085	145	33	13
〃	2,400	231	358	256	0	30
小 計 (1)	6,256	545	1,443	401	33	43

企 画 展	個 人			団 体		
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小
森 林 と 文 化 展	1,538	36				

そ の 他 の 展 覧 会	個 人			団 体		
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小
第19回 勤 労 者 美 術 展	1,290	29	127	0		0
第37回佐賀県児童生徒理科作品展	1,360	116	1,289	0		1,081
第7回 よみがえれ佐賀展	1,997	421	1,168	30	139	1,578
交通安全ポスター及び書道展	743	0	572	23		603
小 計 (2)	5,390	566	3,156	53	139	3,262
合 計 (1)+(2)	11,646	1,111	4,599	454	172	3,305

展 示 概 要	会 場
第38回全国植樹祭を記念して開催され、森林の歴史と文化を再検討するものです。 森は生きている・郷土の緑・森と人々の暮らし・たかめよう緑の力	博物館2・3・4号 (美術館で開催)
小・中・高等学校の生徒による理科作品約150点を展示。	博 物 館 3 号
幕末・近代の佐賀を近代科学・産業・文化面から紹介。	博 物 館 3 号
県内小・中学生の交通安全ポスター・書道入選作品400点。	博 物 館 3 号
日本画、洋画、彫塑、工芸、書、写真、デザインの各部門で県内から一般公募、入選 作約450点を審査員・物故作家作品とあわせて展示。	博物館2・3号 (美術館1・2・3・4号)
本県高等学校美術教育の振興と高校生の芸術文化活動の交流およびその向上をはかる。 絵画・書等約500点を展示。	博物館2・3号

観 覧 料 免 除			招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
大 人	大・高	中・小						
508	548	2,477	0	60	9,039	166	54	4 / 1 ~ 10 / 18
131	169	70	3	14	3,662	102	36	11 / 27 ~ 3 / 31
639	717	2,547	3	74	12,701	268	47	

観 覧 料 免 除			招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
大 人	大・高	中・小						
359	943	4,009	1,415		8,300	25	332	5 / 2 ~ 5 / 31

観 覧 料 免 除			招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
大 人	大・高	中・小						
					1,446	5	289	9 / 2 ~ 9 / 6
					3,846	6	641	9 / 19 ~ 9 / 25
					5,333	8	666	10 / 3 ~ 10 / 11
					1,941	5	388	10 / 14 ~ 10 / 18
0	0	0	0	0	12,566	24	523	
639	717	2,547	3	74	25,267	292	86	

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

博物館報

年4回、各号8ページで1,000部発行。

全国の主要博物館、美術館ならびに研究機関、県内の教育機関、社会教育団体に配布、企画展、新収藏品展の案内から資料紹介までの内容は下記のとおりです。

№77 昭和62年7月10日号

- 絹本着色見心来復像及び絹本墨画淡彩以亨得謙像
- 資料紹介「木造神像群」
- 資料紹介「花鳥図屏風」草場佩川筆
- 講演会要旨「佐賀の近代文学—古川松根展によせて」
- 行事のお知らせ・館内販売図録のご案内・人事異動

№78 昭和62年10月1日号

- 石本秀雄作「画家の家族」
- 石本秀雄展
- 資料紹介「元治元年八月蓮池藩主鍋島直紀の参勤に関する資料について」
- 資料紹介「樽作り」
- 行事のお知らせ

№79 昭和63年2月1日号

- スジグロカバマダラ (カバマダラ科)
- 資料紹介「明治の意匠—徳見知敬と有田の文様」
- 韓国の「独立記念館」見学記
- 常設展のご案内・昭和62年度新収藏品展のお知らせ・美術館図録のご紹介

№80 昭和63年3月15日号

- 岡田三郎助作「風景」
 - 昭和62年度新収藏品展の資料紹介
 - 歴史講演会要旨「弥生人のマツリと暮らし—九州から見た瀬戸内—」愛媛大学教授下條信行
 - 肥前国府庁復元の試み
 - お知らせ
- #### 年報

昭和62年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館年報№18を刊行、昭和62年度の管理概要、事業運営の概況、資料概要、茶室「清恵庵」の管理運営等を掲載する。

B5版・アート紙・64ページ、800冊を印刷。



調査研究書

昭和62年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館調査研究書第13集を刊行、各方面に配布した。

この一冊は、第38回全国植樹祭に合わせて博物館で企画した「森林と文化展」のために調査したものを、下記の内容でまとめている。

B5版・アート紙・79ページ・1,000冊を印刷。

- 佐賀県の植物〔一〕—黒髪山の植物—
- 生きづいた技術を求めて—山間部の生業にみる—
 - ：鍛冶屋 神埼郡脊振村広滝
 - 竹細工 武雄市西川登町神六
 - 木挽き
 - 土曳き① 七山村大字白木570
 - 土曳き② 富士町上無津呂

図録等

「森林と文化展」はパンフレットを作成。内容については企画展の項を参照のこと。



(2) 研究講座

歴史講演会を開催、考古学的な調査が次々となされている現在、新たな発見から米作り農業の開始、金属器の使用など、現代日本への発展の基礎となる弥生時代を主題にお話をうかがった。

演題 「弥生人の暮らしとマツリ
—瀬戸内から見た九州—

講師 下條信行 愛媛大学教授

日時 昭和63年2月6日(土) 14:30～

会場 佐賀県立美術館研修室

(3) 博物館学実習

学芸員養成講座を持つ大学から要請により、昭和62年度は7月22日(土)から8月1日(土)までの10日間、下記の7名で実施した。

実習生	所属大学
緒方智佳子	福岡大学・人文学部
城戸 啓介	同 上
高浪 絵里	同 上
杉山 恵子	西南学院大学・文学部
中村 智子	鹿児島女子大学・人間関係学科
正嶋 了	山口大学・人文学部
金丸 祐子	梅光女学院大学・短期大学部

月日	課目	内 容
7月22日(土)	開講式 業務説明等	館長あいさつ・館内施設見学・博物館美術館の管理運営・学芸活動の実際
23日(土)	企画普及 常設展と企画展	企画普及活動の実際 常設展・企画展の準備と構成
24日(土)	近世美術 近・現代美術	掛軸等の取扱いについて・絵画の取扱いについて・資料調書の作成
25日(土)	施設見学	佐野常民記念館・大隈重信記念館 佐賀県農業試験場付属農業資料館
27日(月)	展示実習 文化人類学	「東光会展」の展示作業補助 自然と人間のかかわりについて
28日(火)	保存科学 自然史	保存科学と展示・収蔵環境について 資料の整理法・植物標本の作成
29日(水)	近世史 中世美術	古文書の解説・調書の作成について 仏教美術資料の取扱と調査法について
30日(木)	考古学 民俗学	資料の整理法・拓本実習 資料の調査法と調書の作成について
31日(金)	工芸 刀剣・申胄	佐賀の工芸・資料の取扱いについて 刀剣の取扱いについて
8月1日(土)	閉講式	座談会—実習を終えて— 閉講式・諸手続など

(4) 館外普及活動

昭和62年5月29日(土) 佐賀県消防学校主催の企業新採研修「佐賀の歴史」学芸課長 小宮睦之。

7月3日(土) 佐賀県教育委員会主催の野外活動指導者養成講習会。
「佐賀の野鳥について」資料係長 田中 裕。

7月7日(土) 佐賀市立赤松公民館主催の赤松長寿大学
「郷土の歴史と文化財について」副館長 高島忠平。

9月9日(土) 佐賀県立三養基高等学校の文化祭講演会
「佐賀藩の近代化について」学芸課長 小宮睦之。

9月10日(土) 佐賀県総務部・統計協会共催の統計グラフ佐賀県コンクール審査員として、学芸員 松本誠一参加 佐賀県互助会館。

11月17日(土) 佐賀県商工労働部主催の「自然公園指導員連絡会議」に資料係長 田中 裕、環境庁委嘱の自然公園指導員として出席する。北山ダム国民宿舎「湖畔荘」。

11月22日(土) 伊万里市教育委員会・伊万里市歴史民俗資料館主催の「古川松根と伊万里展」で、学芸員 福井尚寿 古川松根について講演。

昭和63年1月7日(土) 唐津市教育委員会主催の唐津市文化財審議会に委員として、資料係長 田中 裕出席、唐津市役所。

1月29日(土) 北茂安町公民館主催の寿学級で学芸員 大隈博文「仏像入門について」講演。

3月30日(土) 唐津市文化財審議会に委員として、資料係長 田中 裕出席。

7. 資料調査

- 昭和62年 5月13日(木) 多久市石州分の所蔵家資料調査：学芸課長小宮陸之、学芸員福井尚寿。
5月19日(火) 諸富町大堂神社伝世の船模型調査：榮寿丸（明治7年）、日本丸（明治19年再建）およびミニチュアの四爪碇（天保13年～）を学芸員山崎和文、藤口健二が調査する。
6月11日(休) 東京都錦糸町西武デパートで開催された佐賀県観光課主催の「佐賀の伝統産業」展に
～17日(休) 民俗部門の資料を貸出し、学芸員山崎和文展示指導および撤収立会いに出向。
6月16日(火) 佐賀市今宿町の所蔵家資料調査：中世松浦党の子孫で、近世には多久氏の家臣であった一族は、幕末・明治期に鶴田斗南、草場佩川、高取伊好などの文人を輩出している。学芸課長小宮陸之、学芸員福井尚寿。
6月18日(休) 鳥栖市四阿屋観音堂、三田川町知足庵の仏像等調査：学芸員大隈博文。
6月19日(金) 佐賀市金立町白髪神社仏像調査：文化課文化財管理係の依頼で学芸員大隈博文参加。
6月24日(休) 熊本県立美術館所蔵の葉山潮湖筆山水図（一幅）の資料調査：龍造寺信親の次男で鍋島直茂に仕え、狩野派に画を学ぶ。加藤清正の請いに熊本城の壁画を描いている。学芸課長小宮陸之、学芸員福井尚寿。
6月27日(土) 佐賀県歴史資料調査：事務局参与に副館長高島忠平、専門員学芸課長小宮陸之が参加。佐賀県歴史資料調査会（1）
8月4日(火) 佐賀県歴史資料調査会（2）福岡県立柳川古文書館、柳川市歴史民俗資料館を視察後、資料部門の検討など。
9月15日(火) 佐賀県歴史資料調査会（3）同じく調査の一貫として神奈川鎌倉市相模屋、東京都目黒区福田家の資料調査を行う。
～17日(休)
9月28日(月) 佐賀市大和町健福寺、実相院の仏像等調査：学芸員大隈博文。
10月5日(月) 佐賀市大和町玉林寺、高城寺の仏像等調査：学芸員大隈博文。
10月8日(休) 鹿島市高津原の所蔵家資料調査：諫早藩の傍系にあたり歴史的な文書類、工芸資料等について。副館長高島忠平、学芸課長小宮陸之、学芸員宮原香苗、福井尚寿。
10月20日(火) 佐賀県歴史資料調査会（3）
11月5日(休) 佐賀県歴史資料調査会（4）
12月9日(休) 有田町歴史民俗資料館の正司家文庫蔵 古川松根漢詩帖ほか資料調査。資料係長田中 裕、学芸員福井尚寿。
12月10日(休) 神埼町、福富町、武雄市の所蔵家宅で古川松根関係資料調査：学芸員福井尚寿
12月19日(土) 佐賀市野中萬太郎家資料調査：国文学研究資料館の文献資料調査に学芸員松本誠一、福井尚寿が加わる。
昭和63年 1月12日(火) 多久市北多久町、伊万里市の所蔵家宅で古川松根ほかの資料調査
副館長高島忠平、学芸員福井尚寿。
1月14日(休) 宮内庁御物「嘉永六年露国使節水師提督布恬延上上陸長崎之図」画家田川玉巖に関する調査：霞会館資料展示委員会の依頼により学芸員福井尚寿、長崎市周辺で画家の来歴、画風ならびに時代背景などについて調査する。
～16日(土)
1月19日(火) 唐津市内の所蔵家宅を調査 古川松根、草場佩川、浦上春琴など：学芸員福井尚寿
1月26日(火) 国造千拓の植物・動物の観察調査 有明海のシチメンソウおよびオオノスリ（佐賀県内2回目の記録）・タゲリ：資料係長田中 裕。
2月4日(休) 鹿島鍋島家史料を調査に、学芸課長小宮陸之福岡市へ。
2月10日(火) 富士町大串光照寺の考古資料調査 先代住職右近法真氏が町内で採集・整理した縄文時代の石鏃類ほか。専門員木下 巧、学芸員藤口健二、松本誠一。
2月24日(休) 補足調査：七山村野井原川対初太郎氏・同白木盛田二六氏の林業「木挽き」「胴引き」
～26日(金) 脊振村広瀧小川鍛冶屋 武雄市西川登町栗山商店の竹細工について、学芸員山崎和文。
3月9日(火) 相知町医王寺所蔵の県重要文化財木造薬師如来立像の修復確認調査：学芸員大隈博文。

資料の概要 — 昭和62年度・博物館 —

1. 購入資料

(1) 自然科学資料

資料名	数量	備考
佐賀県産鳥類剥製標本 カササギ雌、クゲリ、オシドリ、アカショウビン、ヤマセミ、ハイタカ、マダラウミスズメ、オオコノハズク雌雄、フクロウ、キレンジャク、ゴイサギ幼鳥、カルガモ、ヒドリガモ雌、シロハラ雌雄、シメ	15種18点	

(2) 考古資料

資料名	数量	備考
経塚山古墳出土 方格規矩鏡	1件1点	複製
同上 鉄刀	1件1点	複製
同上 鉄剣	1式2点	複製
同上 鏝型鉄器	1式6点	複製

(3) 歴史資料

資料名	数量・規格	備考
大潮元皓筆 達磨図	1幅90.0×28.2	絹本墨画
秋圃筆・古賀精里讀 草木図	2幅対96.5×41.5	絹本墨画淡彩
長谷川雪旦筆 淀川船曳図	1幅33.6×59.7	紙本墨画淡彩
草場佩川筆 寿星図	1幅112.4×41.9	絹本墨画淡彩
古川松根筆 四季風物図	4幅対135.6×44.7	紙本墨画淡彩
岸天岳筆 鶴図	1幅107.6×41.1	絹本墨画淡彩
柴田是真筆 四季の花図	1幅122.6×54.3	絹本着色
柴田是真筆 月下兔図	1幅122.8×54.4	絹本墨画淡彩
長谷川雪塘筆 高士弾琴図	1幅126.5×60.0	紙本着色
長谷川雪塘筆 宝船図	1幅36.7×46.5	紙本墨画
武谷雪溪筆 花見図	1隻153.0×172.1	紙本着色
肥前名護屋城井陣図	1面83.0×155.0	紙本着色
唐津藩領内図	1面87.8×118.1	紙本淡彩
文化元年 ロシア船渡来図	1面39.0×79.5	紙本淡彩
正保四年 長崎警備図	1面39.4×52.9	紙本淡彩
文化三年 ロシア人渡来図	1面27.0×40.0	紙本淡彩
当世具足(甲冑)	1式兜高18.0、胴高38.0	小城松田家伝来
足輕具足	1式陣笠径33.0、胴高39.0	小城松田家伝来
陣羽織	1着身幅64.0、着丈90.0	ラシャ地

(4) 民俗資料

資料名	数量	備考
コマ作り資料一括 飾りゴマ4種(4)、飾り坊主ゴマ工程(6)、飾りヘソゴマ工程(6)、平ゴマ9種(7)、ヘソゴマ3種(8)、坊主ゴマ6種(20)、トンガリゴマ3種(00)、ヒモ3種(9)、ケン4種(20)	34件140点	唐津市・隈本木工所

2. 寄贈資料

(1) 自然科学資料

資 料 名	数 量	寄 贈 者
佐賀県産蝶標本・オオムラサキ	1箱9頭	古賀 善十 佐賀市北川副町木原
佐賀県産鳥類等剥製標本 セグロカモメ、カササギ、シロハラ、ツグミ、スズメ(3)、セッカ、キュウシュウモグラ	7種9点	伊東 健吾 神埼郡三田川町豆田

(2) 歴史資料

資 料 名	数量・規格	寄 贈 者
鍋島綱茂筆 弁財天十五童子図	1幅36.2×15.5	坂田 儀助 佐賀市水ヶ江2-9-12
蓮池藩主鍋島直紀資料 元治元年拝領天杯（瓦器） 元治元年参内行列簿 東带着方次第 拝領物目録(4) 参内手続 元治元年御対顔作法絵図 元治元年参内下乗其外図	7件10点	杠 敬代 佐賀市蓮池町114番地
小城藩士小副川安右衛門資料ほか・ 寛政元年松井氏秘方伝授記 天保九年御巡見様御通行ニ付御横目衆しらべ写 天保九年御巡見衆御諸作事雑費如 天保九年巡察使儀略 御用人御案内正観寺庄屋言上書 文政六年小副川安右衛門宛褒状(3) 小副川安右衛門宛褒状 明治七年地券之證：肥後國中嶋弥七郎 明治十三年地券之證：同 上 明治十三年地券之證：同 上(3枚とし) 小副川某書箱 【奇談一笑】 【日本外史】 明治三十年今崎喜左エ門宛佐賀県知事褒状 大正五年度年始状人名書：今崎喜衛門 大正五年各地発送状地書：今崎 昭和五年小副川泰三郎宛佐賀県知事通知状 遊具（十種香一式）	18件25点	小副川 宏 小城郡牛津町柿樋瀬

(3) 民俗資料

資料名	数量	寄贈者
木蠟作り工程資料 大釜、中釜、釜蓋、モネ、植ちぎり袋、ブリコ、 杠秤(大2、小2)、うめ皿(8)、蠟皿、木臼、杵、 蠟代金帳(3)、蠟屋広告紙、木蠟表彰状(4)、分銅(3)	16種34点	牟田 汪 神埼郡東脊振村大曲
桶作り資料：鹽桶(大・小)・手洗桶	3種3点	山田キクヨ 佐賀郡久保田町徳万
小川鍛冶屋資料 改良鋸(2)、造林鎌(3)、フクロヤ、鉈、吹子、牛草 履	6種9点	小川 伶俐 神埼郡脊振村広滝
林業土曳き工程資料 ヤ、カスガイ(2)、根切り斧、鉈、横挽き鋸、木挽 き鋸、カン(3)、カクマワシ(2)	8種12点	川本初太郎 東松浦郡七山村野井原
林業土曳き工程資料 カン(3)、カン打ち斧、カクマワシ、カクギ	4種6点	盛田 二六 東松浦郡七山村白木
林業資料：木馬	1種1点	嘉村 政登 佐賀郡富士町上無津呂
カゴ作り工程資料など カゴ製作工程(5)、竹細工編み目サンプル(9)、竹細 工製品(4)	3種38点	栗山 時雄 武雄市西川登町神六
佐賀県民俗芸能関係資料ほか 佐賀県民俗芸能関係資料スクラップブック(5)、ネ ガ類(3)、伊勢講入金帳、慶応四年伊勢講金記録帳	4種10点	花山院親忠 奈良市上高畑町1321-1
埼玉の民俗音楽 (LPレコード)	1組2枚	埼玉県民俗文化センター 埼玉県岩槻市加倉1068-2
佐賀市高取家屋根瓦類資料 鬼瓦(大・中・小2)、熨斗瓦(2)、下棟先瓦(2)	5種8点	高取 綾 佐賀市中ノ小路
有明町平和写真館写真機材資料 暗箱、トリワク、木製三脚(3)、レンズ	4種8点	久野 修護 杵島郡有明町戸ヶ里

3. 寄託資料

資料名	数量	寄託者
木造菩薩形立像	3 軀	東京都・個人
伝雲谷等顔筆 山水図屏風	1 隻	佐賀市・個人
中林梧竹筆 十七帖臨書屏風	1 隻	〃
古川松根筆 和歌「独立夜燈座」	1 幅	〃
蔣絵提重 花鳥御所車文	1 式	〃
古地図類 慶長小城内絵図 御城内絵図 御城内分間御絵図 肥前国御城郭図 三根郡綾部郷図 養父郡図 綾部郷山方絵図 拝借地見取図 多久領別府～唐津街道図	9 面	東京都・個人

4. 資料の貸出状況

資料名	貸出先・目的	貸出・返納
肥前名護屋城図屏風 (佐賀県重要文化財)	仙台市博物館「伊達政宗と家臣たち — 乱世を生きた男の群像」展	62. 4. 14～6. 11
竹細工・面浮立・樽・独染・鍛冶屋・木蠟・ ツバキ油などの製作工程資料、パネル類	佐賀県観光課 「佐賀県の物産と観光展」	62. 6. 8～6. 19
関行丸古墳出土環鈴 (佐賀県重要文化財) 花納丸古墳出土環鈴 (佐賀県重要文化財) 宝亀五年銘椅寺鐘 (複製) ほか	甘木歴史資料館 「古代の音色 — 出土品に見る“鳴り物”」展	62. 7. 15～9. 10
黒髪山系の植生図パネル 黒髪山系の植物腊葉標本パネル (含植物腊葉標本16点) など5点	黒髪少年自然の家 来所者の学習用に利用する	62. 7. 17～11. 9
絹本着色以亨得謙像・見心来復像 鳥栖市万歳寺寄託	鳥栖市教育委員会「万歳寺頂相画2幅 国重文指定記念一般公開」	62. 7. 24～7. 26
肥前名護屋城図屏風 (模写)	山口県立山口博物館「海の日本史 — 船にまつわる日本の歩み—」展	62. 7. 24～9. 4
青森県内出土縄文土器深鉢 佐賀市大門西遺跡出土縄文土器鉢	NHK佐賀放送局 九州730「縄文土器に魅せられて」	62. 8. 31
呼子町大友遺跡出土貝輪26点	大阪市立博物館 「動物の考古学」展	62. 9. 10～11. 27
鍋島藩窯様式 色絵けし文皿 同 上 青磁耳付花器 同 上 染付鍋島藩窯絵図大皿 (佐賀県重要文化財)	神奈川県立博物館 「色鍋島—藩窯から現代まで—」	62. 9. 10～11. 25
寛永十二年長崎警備之図屏風 鍋島報効会寄託	長崎県立美術博物館「近世長崎のあけぼ の展—南蛮船の来航から鎖国まで—」	62. 9. 29～11. 17

資料名	貸出先・目的	貸出・返納
小城町寺浦廃寺出土重弧文軒平瓦	佐賀新聞社 「第7回よみがえれ佐賀展」	62. 9. 30～10. 15
田代太田古墳奥壁復原模写 竹原古墳前室右側壁画復原模写 王塚古墳前室右側壁画復原模写 高井田横穴羨道左側壁線刻壁画模写など7点	飯塚市歴史資料館 「古墳壁画とハニワ展」	62. 10. 22～12. 5
古川松根筆夫婦立雛図 古川松根筆大石良雄宴楽図屏風 古川松根筆紀貫之像 古川松根筆花鳥図屏風など9点	伊万里市歴史民俗資料館 「古川松根と伊万里展」	62. 11. 4～12. 2
肥前名護屋城図屏風	文化庁：重要文化財指定調査のため	63. 1. 18～6. 30
銅造誕生仏（佐賀県重要文化財） 武雄市広福護国禅寺寄託	倉吉博物館 特別展「誕生釈迦仏」	63. 3. 22～5. 16

5. 購入・寄贈図書 — 昭和62年度 博物館・美術館共通 —

(1) 購入図書

書名	発行所	書名	発行所
文化人類学事典	弘文堂	在英収蔵 日本の漆器	京都書院
日本現代美術 彫刻	形象社	日本絵巻大成（全26巻）	中公公論社
〃 工芸	形象社	近代日本洋画素描大系（全4巻）	講談社
日展史 16	社団法人日展	中国絵画史（上・中之1）	吉川弘文館
日本常民生活絵引	平凡社	日本絵画史図典	福武書店
国史大辞典	吉川弘文館	ベルリン美術館	岩波書店
家具の事典	朝倉書店	日本美術史論集	中央公論美術出版
明治の輸出工芸図案	京都書院	舶来事物起源事典	名著普及会
続佐賀藩の総合研究	吉川弘文館	ピカソ 眼の記憶	岩波書店
原色日本の意匠（全16巻）	紫紅社	芸術の日本	美術公論社
ルーヴルとパリの美術（全7巻）	小学館	写真の歴史	PARCO出版局
むかしきれ和更紗紋様裂	京都書院		

(2) 寄贈図書

書名	寄贈者	書名	寄贈者
日展史 17・18	社団法人日展	原色日本の意匠 第16巻	紫紅社
日本婦人洋装史	吉川弘文館	堀友三郎 丸紋図案集	堀友三郎
二科70年史 1914-1984	社団法人二科会	小牧源太郎 シュルレアリスムの実証	講談社
古美術 百万人のコレクションNo.9	東洋総企		

この他、全国的美術館、博物館、研究所、各県教育委員会、各市教育委員会などから貴重な調査研究書、図録、報告書類を膨大な点数御恵贈いただいております。

茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

1 茶室の規模および施設

茶室「清恵庵」は昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で15年目を迎える。利用の傾向としては普及が広く一般に浸透し、県内、県外の茶道各流派のグループによる利用や、各種団体による茶会など幅広く利用された。

設計者 堀口捨己 東京都大田区山王 4-6-5
早川正夫 東京都港区青山 5-9-12

アイザワビル

構造 木造平家建 寄棟造り

規模 床面積 57.35㎡

2 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、15年目に入り県内はもとより県外にも広く周知され、好評を得ている。

今年度は、各流の茶道グループ、婦人学級、青年団、学校などの団体あるいは、茶道愛好会など利用者の幅もさらに広まり、社会教育、学校教育の一環として広く利用された。

月別にみた利用状況は次のとおりである。

昭和62年度			
月	利用団体数	利用者数	見学者数
4	2	233	0
5	2	27	6
6	0	0	3
7	2	53	4
8	2	268	7
9	0	0	2
10	0	0	1
11	1	80	56
12	1	9	0
1	4	90	1
2	0	6	0
3	0	0	4
計	14	760	84

3 茶道具備品

昭和62年度末の概況は次のとおり191点である。

掛物 淡々斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書、村瀬玄妙の書、売茶翁の二行書、千宗佐、千代尼

花入 胡銅、朝鮮唐津「中里重利作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原巖作」、備前焼、竹花入「生野祥雲齋作」、竹一重切花入「宗陵作」、有馬千鳥籠花入、有馬ひさご籠花入「昭竹齋作」、青磁鶴首花入「小笠原巖作」

香合・香炉 「12代今泉今右衛門作」、「井上萬二作」、黒牟田焼「丸田正美作」、「宗祥作」、菊花書詰蒔絵卵香合「助市作」、「13代今泉今右衛門作」、「源右衛門作」

茶碗 唐津奥高麗「中里無庵作」、絵唐津・唐津刷毛目「13代中里太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原巖作」、青磁「中島宏作」、唐津井戸・唐津皮鯨茶碗「中里重利作」、白磁茶碗「初代忠右衛門作」、黒染茶碗「小川長楽作」、志野茶碗「荒川豊蔵作」、支那焼、高麗斗々屋「千漢風作」

水指 信楽焼「高橋楽齋作」、朝鮮唐津「中里重利作」、小山路焼「江口勝美作」、染付「12代今泉今右衛門作」、高麗「千漢風作」

薄茶器 沈金棗「安村繪作」

濃茶器 「13代酒井田祐右衛門作」

茶杓 「宗泰作」

風炉 利休面取風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉、鬼面共耳風炉

釜 切合釜・竹紋縁口釜「松寿作」、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜「高橋敬典作」、尻張釜「高橋敬典作」、鬼面共耳風炉釜「横倉嘉山作」

棚 竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長坂

火入 染付「12代今泉今右衛門作」

菓子器 唐津焼「13代太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、青磁「中島宏作」、現川焼

建水 不審庵伝来写「11代中川浄益作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、唐銅

風炉先屏風 秋草蒔絵

炉縁 高台寺蒔絵「柴田利雄作」

曲湯桶、置炉、瓶掛、蒔絵塗四方盆、茶托と蓋、茶碾、茶壺

昭和62年度

佐賀県立美術館

美術館の沿革

昭和55年 3月	県政百年記念事業の一環として、昭和58年開館を目指し、佐賀県立美術館の建設を決定。
昭和55年 4月25日	佐賀県立美術館建設委員会設置。
12月10日	安井建築設計事務所による基本設計採用。
昭和56年 3月31日	安井建築設計事務所による実施設計採用。
10月26日	佐賀県立美術館建設着工。
昭和58年 1月31日	佐賀県立美術館建設完工。
4月 1日	佐賀県立美術館設置条例施行。 佐賀県博物館及び美術館協議会条例施行。 佐賀県立美術館処務規則施行。
10月 7日	山口亮一氏遺作64点を山口三千也氏より寄贈受く。
10月 8日	佐賀県立美術館落成式、開館記念展「近代・九州の洋画家たち展」開かる。
昭和61年 9月 1日	石本秀雄氏遺作31点を遺族より寄贈受く。

以上のほか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。
ここには点数の特に多いもののみを記載しました。

美術館日誌 昭和62年度

4月 1日	職員人事異動 新収藏品展（～4月5日） 第1期常設展「近・現代絵画」（～6月28日）	11月15日	佐賀県高等学校芸術祭美術書道展 （～11月23日）
5月 2日	博物館企画 森林と文化展（～5月31日）	11月25日	第38回佐賀県学童美術展（～11月29日）
6月 6日	第71回二科会展（～6月14日）	11月27日	第3期常設展「近・現代絵画」（～3月31日）
6月20日	第70回佐賀美術協会展（～6月28日）	12月 2日	第8回佐賀新聞学生書道展（～12月6日）
7月 1日	第2期常設展「近・現代絵画」（～10月18日） 第12回九州藍笥会展（～7月5日）	12月 9日	第29回佐賀大学教育学部美術工芸科総合 展（～12月13日）
7月 4日	石膏デッサン教室開講（～8月1日） 人間国宝・中里無庵とその周辺展 （～7月19日）	12月16日	第2回ハチロク展（～12月20日）
7月 8日	第12回佐賀県書作家協会展（～7月12日）	12月28日	執務納め式
7月15日	第4回佐賀県写真協会展（～7月19日）	1月 4日	執務始め式
7月22日	第18回独立C・S展（～7月26日）	1月 6日	富永将暉仕事展（～1月10日）
7月28日	第53回東光会展（～8月2日）	1月15日	成人の日、常設展無料開館
8月 5日	第15回七夕書道展（～8月9日）	1月19日	第10回さが行動展（～1月24日）
8月11日	吉武研司展（～8月16日）	1月27日	第2回佐賀大学書道部OB合同展 （～1月31日）
8月18日	第8回九州新工芸展・第7回日韓文化交 流展（～8月23日）	2月 2日	第26回佐賀県高等学校デッサン大会
8月27日	ミレー、コローとバルビゾン派の画家た ち展（～9月27日）	2月 9日	北高美術部OB展（～2月14日）
10月 2日	美術館企画 石本秀雄展（～10月23日）	2月17日	第37回佐賀大学美術工芸科卒業制作展 （～2月21日）
10月25日	美術館自主企画 映写会「きみが輝くと き」他	2月24日	第1回九州芸術祭県展選抜展 （～3月3日）
10月31日	第37回佐賀県美術展（～11月8日）	3月10日	新収藏品展（～3月31日）
		3月16日	個展の集合ボックス30展（～3月21日）
		3月23日	第10回二紀佐賀グループ展（～3月27日）

規模および施設

構 造	鉄筋コンクリート造	一階建	一部二階建		
規 模	敷地面積	7,986㎡			
	建築面積	3,644㎡			
	延床面積	4,238㎡			
施 設	1号展示室	204㎡	倉 庫		5㎡
	2号展示室	230㎡	ホール		529㎡
	3号展示室	250㎡	和楽室・洋楽室		39㎡
	4号展示室	366㎡	準備室		18㎡
	収蔵庫	319㎡	映写室		12㎡
	収蔵庫前室	26㎡	機械室		47㎡
	荷解場	120㎡	倉 庫		13㎡
	倉 庫	79㎡	便 所		34㎡
	画廊・準備室	137㎡	ホワイエ		126㎡
	研修室	135㎡	休憩室		56㎡
	事務室	148㎡	便 所		93㎡
	写真室・暗室	58㎡	廊下・階段等		1,114㎡
	機械室	80㎡			

※組織は全て博物館と同様であり、博物館職員全員がそれぞれ対応する職を兼務している。

昭和62年度 美術館歳出予算

科 目	予算額 (単位千円)	科 目	予算額 (単位千円)
(美術館費)		3. 調査研究費	152
1. 管理運営費	44,908	研究費	90
管理費	44,788	調査費	62
会議及び研修費	120	4. 企画展費	5,467
2. 資料整備費	25,788	5. 常設展費	1,640
資料購入費	20,223	6. 普及活動費	134
資料整理費	5,375	7. 資料目録刊行費	595
資料収集費	190	計	78,684

事業の実施状況

1. 昭和62年度 美術館常設展

- 第1期 4月1日～6月14日
*全国植樹祭記念「森林と文化」展のために、美術館常設展は博物館3号展示室へ。
- 第2期 7月1日～9月15日(博物館3号)
7月1日～10月18日(美術館1号展示室A・B)
- 第3期 11月27日～3月24日
*美術館1～3号展示室で常設展
3号展示室のみ3月6日まで、その後新収蔵品展となる。

I 彫 刻

古賀忠雄 芸術員会員として活躍した故人の作品を展示。

〈第1期・博物館3号〉

:マドリッドの女・鮭・錬磨・草原を行く・花売り・読書・童・子守り・うさぎ・一粒の種・闘・うさぎ・サーカス

〈第2期・美術館1号A〉

:鶏舎の朝・団らん・婦人像・草原を行く・のどか ほか

〈第3期・美術館1号A〉

:流れに立つ・花売り・間・錬磨の男・寸暇・伸びる ほか

中島快彦 行動美術協会で現代彫刻に挑んだ故人の作品を紹介。

(1号展示室B:11月27日～3月24日)

:ホワイト・ホール・そしてひと

II 版 画

ベルナルド・ビュフェ フランスの画家、ロートレアモン作の詩にドライ・ポイントで挿絵を描き、装丁したものを展示。

(1号展示室B:11月27日～3月24日)

:「マルドロールの歌」より9点
フランス装本上下2巻

III 工 芸

1号展示室B ①6月8日～8月13日

②8月14日～9月27日

吉島義子 鍋島緞通を現代に伝える染織家、久留米在住。

:鍋島緞通蟹牡丹文・鍋島緞通蔓牡丹文

副島太郎 幕末の佐賀藩精煉方でつちかわれた佐賀硝子「宙吹き」を創作の糧に。

:瑠璃色器・紅彩(①・②)・夜明け(以上①、以下②に展示した)

城 秀男 布をひっかき、主題となる樹の生命力を表現する染色家、日展会員。

:屏風・現代想

小川泰彦 有明の海の尽きせぬ表情を布のうえに描きあげる染色家、日展会員。

:屏風・有明

金 聖洙 キム ソンヌ 大韓民国を代表する漆工家、木を素材とした象嵌技法を創作する。

:木漆象嵌葦文箱

IV 近代・現代美術

日本洋画界の創世期を歩んだ百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助らを先陣として、官展系の流れをくむ高木背水、北島浅一から山口亮一までの郷土作家を紹介する。

〈第1期・博物館3号〉

百武兼行 バーナード城・耕作

老婦人像(～5.19)

マンダリンを持つ少女(5.12～)

タンパリンを持つ少女

岡田三郎助 矢調べ・少年像・老人像

藤島武二 裸婦・老人像・蘇州河激戦の跡図

青木 繁 夕焼けの海・筑後風景

高木背水 永田町馬場・練馬風景

御厨純一 黒衣の婦人

北島浅一 パリーの踊り子

山口亮一 鳥と子供

〈第2期・博物館3号〉 同 上

〈第3期・美術館2・3号〉

・2号展示室には、佐賀を代表する近代洋画家の作品を展示する。

百武兼行 馬車のいる風景・耕作・バーナード

常設展

	城下絵・老婦人像・タンバリンを持つ少女・ネメアの獅子と闘うヘラクレス		• 3号展示室では、日本画を紹介する。 ただし、新収蔵品展のために3月6日まで。
岡田三郎助	矢調べ・少年像・老人像・富士山・富士山・花野・婦人半身像・立てる裸婦	腹巻丹丘 落花 野口謙次郎 春溪図	
黒田清輝	画室内	立石春美 早乙女・櫛巻きの女・華岡青洲の妻	
藤島武二	老人像・裸婦・裸婦・台湾娘・蘇州河激戦の跡図・裸婦	藤田隆治 魚壁 小栗 潮 陽	
青木 繁	ランプ・夕焼けの海	池田幸太郎 山の手風景(I)・三宅坂付近	
高木背水	永田町馬場	川浪養治 キジ	
佐伯祐三	八百屋	下川千秋 蒼苑 岩永京吉 牡蠣を打つ人	

2. 昭和62年度 美術館新収蔵品展

会 期 昭和63年3月8日～24日
会 場 美術館3号展示室

近代・現代美術

作 品 名	作 者 名	制 作 年	備 考
風 景	岡 田 三 郎 助	大正8年	
夜 の 静 物	島 内 き み	昭和15年	
古 い 壺 の 枯 草	島 内 き み	昭和61年	
火 鉢 に よ る 女	石 本 秀 雄	昭和9年	
藤 椅 子 に よ る 女	石 本 秀 雄	昭和11年	
釣 り 人	鍋 島 紀 雄		
赤 い 船	鍋 島 紀 雄	昭和40年	
山 空 碧 水 流	鍋 島 紀 雄	昭和37年	鍋島登代氏寄贈
幸 せ な 一 日	牧 野 宗 則	昭和61年	
飲 び あ ふ れ て	牧 野 宗 則	昭和62年	
久 遠	牧 野 宗 則	昭和61年	
愁 い (彫刻)	脇 山 修	昭和62年	文化課より管理換
窓 か ら (日本画)	西 澤 秀 行	昭和62年	//
鷺 (洋画)	宮 崎 宏 一 郎	昭和62年	//
陶 淵 明 の 詩 (書)	高 尾 浩 正	昭和62年	//
子等を忘れたオルガン (写真)	島 内 義 則	昭和62年	//

工 芸

作 品 名	作 者 名	制 作 年	備 考
型 絵 染 着 物 芋 葉 文	鈴 田 照 次	昭和31年	
木版摺更紗着物 松竹梅文	鈴 田 照 次	昭和50年	
和 紙 型 絵 染 面 浮 立	鈴 田 照 次	昭和48年	北島常一氏寄贈
和紙型絵染表紙デザイン	鈴 田 照 次	昭和38・48・53年	//

3. 昭和62年度特別企画 石本秀雄展

主催 佐賀県教育委員会・佐賀県立美術館
佐賀美術協会・佐賀新聞社

会期 昭和62年9月2日(金)～23日(金)

会場 佐賀県立美術館 2・3・4号展示室

観覧料 大人 大・高生 中・小生
個人 500円 200円 150円
団体 (400円) (150円) (100円)

図録 アート紙を使用しオールカラー版図録全 178ページを刊行。

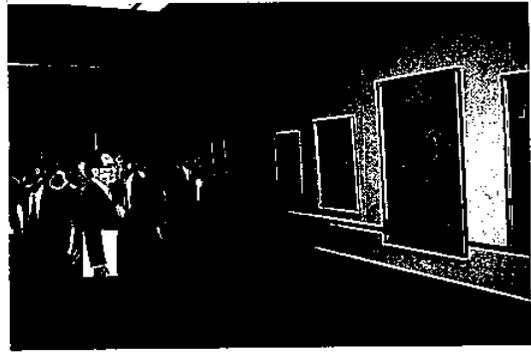
展示概要

昭和6年(1931)、石本秀雄は東京美術学校を卒業と同時に、佐賀県立小城中学校に赴任した。爾來、画家の歩みは、中央洋画壇に確実な足跡をしるすとともに、本県美術界の確固たる基盤を踏みしめてきた。

百武兼行、岡田三郎助、山口亮一、北島浅一、御厨純一と続く本県洋画のアカデミズムの人脈は見事、石本秀雄に受け継がれてきたのである。

昭和9年(1934)の帝展初入選以来、日展での輝かしい受賞歴は、本県美術界の誇りであり、その画家としての力強い姿勢は、本県の各会派の美術家達に多大の影響を与えてきた。県展の創設、佐賀大学特設美術科の開設、東光会佐賀支部の緑光会の結成など、まさに指導者として獅子奮迅の活躍であった。

しかし、巨星落つ。昭和61年(1986)3月、77年の生涯が閉じられた。本展覧会は、この県洋画壇にしるされた画業を振り返り、本県美術界の頂点に巍然と立ち続けた一人の画家の全画業を回顧するものである。



会場風景



石本秀雄

図録

出品目録

作品名	制作年	寸法(cm) たて×よこ	出品歴	所蔵
油彩画				
1 自画像	1929 (昭和4)	45.3×37.5		
2 冬の女(火鉢による女)	1934 (昭和9)	91.0×72.6	第2回東光展	
3 校庭の春	1934 (昭和9)	112.0×145.0	第15回帝展	佐賀県立小城中学校
4 室内小憩	1936 (昭和11)	145.7×112.0	第1回大潮展(大潮会賞)	佐賀県立美術館
5 藤椅子に凭る女	1936 (昭和11)	194.0×130.0	昭和11年文展	
6 秋	1938 (昭和13)	181.4×227.0	第6回東光展	佐賀県立美術館
7 戦線平日	1938 (昭和13)	117.3×80.3	第2回文展	多久市役所
8 ゆうかり	1939 (昭和14)	116.9×80.0	第7回東光展	佐賀県立美術館
9 麦秋	1939 (昭和14)	116.7×91.0	第3回文展	佐賀県立美術館

石本秀雄展

作品名	制作年	寸法(cm) たて×よこ	出品歴	所蔵
10 雨の日	1940 (昭和15)	111.2×144.8	第5回大潮展	
11 市の人々	1940 (昭和15)	145.3×112.0	紀元二千六百年奉祝展	佐賀県立美術館
12 炭鉱の魚売り	1941 (昭和16)	112.2×145.6	第9回東光展	長崎県立美術博物館
13 炭鉱の朝	1941 (昭和16)	91.0×116.5	第9回東光展	佐賀県立美術館
14 病床	1941 (昭和16)	90.5×69.3	第6回大潮展	
15 焚火(鉱山の朝)	1941 (昭和16)	162.5×131.0	第4回文展	佐賀県立美術館
16 冬の子供達(A)	1942 (昭和17)	116.7×90.6	第10回東光展	佐賀県婦人会館
17 冬の子供達(B)	1942 (昭和17)	116.5×90.8	第10回東光展	
18 雲と麦	1943 (昭和18)	90.3×116.4	第8回大潮展	多久市立中部小学校
19 静物	1943 (昭和18)	91.0×116.7	第6回文展	佐賀県立美術館
20 少年の頃	1947 (昭和22)	91.0×116.6	第3回日展	佐賀県立美術館
21 庭と少女	1948 (昭和23)	116.8×91.0	第4回日展	佐賀県立美術館
22 画室	1949 (昭和24)	145.3×112.0	第14回大潮展	佐賀県立美術館
23 傘を乾す画室	1949 (昭和24)	91.0×116.5	第5回日展	佐賀県立美術館
24 暗着を着たK子	1950 (昭和25)	90.7×72.4	第16回東光展	長崎県立美術博物館
25 椅子に凭るA子	1950 (昭和25)	115.5×90.4	第16回東光展	佐賀県立美術館
26 子供と紙風船	1950 (昭和25)	91.2×73.0	第16回東光展	小城幼稚園
27 白い服の少女	1950 (昭和25)	116.8×91.0	第6回日展	佐賀大学
28 画室にて	1951 (昭和26)	162.8×130.6	第17回東光展	佐賀大学
29 冷い朝	1951 (昭和26)	116.5×91.1	第17回東光展	
30 画家の家族	1951 (昭和26)	194.0×130.0	第7回日展(特選)	佐賀県立美術館
31 裸婦を描く(A)	1952 (昭和27)	117.0×90.5	第18回東光展	佐賀県立美術館
32 ささやき	1952 (昭和27)	145.2×112.2	第8回日展	
33 白い手袋	1953 (昭和28)	116.6×91.0	第19回東光展	
34 画学生の像	1953 (昭和28)	116.6×90.6	第19回東光展	佐賀県立美術館
35 晩夏	1953 (昭和28)	145.5×112.0	第9回日展	佐賀県立美術館
36 舞台裏のK女史	1957 (昭和32)	90.8×72.7	東光会会員展	佐賀県立美術館
37 午後の客	1957 (昭和32)	116.6×91.0	第13回日展	
38 首飾りの裸婦	1958 (昭和33)	116.8×91.0	第24回東光展	佐賀県立美術館
39 外出用意	1958 (昭和33)	116.6×91.0	第24回東光展	佐賀県立美術館
40 椅子に凭る	1958 (昭和33)	162.2×112.0	第1回日展(社団法人)	佐賀県立美術館
41 椅子に凭る	1959 (昭和34)	145.0×97.0	第25回東光展	佐賀県立美術館
42 休みのポーズ	1959 (昭和34)	116.8×90.7	第25回東光展	佐賀県立美術館
43 裸婦とゴムの木	1959 (昭和34)	145.0×97.0	第2回日展	佐賀県立美術館
44 オーバーの女	1960 (昭和35)	145.2×97.3	第26回東光展	
45 対話	1960 (昭和35)	113.2×131.3	第3回日展(菊華賞)	佐賀県立美術館
46 はなし	1961 (昭和36)	130.3×97.2	第27回東光展	佐賀県立美術館
47 裸婦	1961 (昭和36)	130.2×97.0	第27回東光展	佐賀県立美術館
48 臥龍松	1961 (昭和36)	112.4×145.4	第4回日展	
49 女二人	1962 (昭和37)	145.5×112.2	第28回東光展	佐賀県立美術館
50 チェロを弾く	1962 (昭和37)	145.3×112.3	第5回日展	佐賀県立美術館
51 調音	1963 (昭和38)	145.6×97.0	第29回東光展	瓊浦高等学校
52 チェリスト	1963 (昭和38)	130.0×97.0	第29回東光展	
53 白杵観音	1964 (昭和39)	130.2×97.2	第30回東光展	佐賀県立美術館

作品名	制作年	寸法(cm) たて×よこ	出品歴	所蔵
54 白杵勢至	1964 (昭和39)	145.0×97.0	第30回東光展	
55 白杵勢至	1964 (昭和39)	145.3×97.0	第7回日展	佐賀県立美術館
56 エテン教会	1965 (昭和40)	145.3×89.3	第8回日展	
57 聖堂	1966 (昭和41)	145.1×96.8	第32回東光展	純心女子短期大学
58 トレド	1966 (昭和41)	130.1×97.0	第32回東光展	
59 トレドの丘	1966 (昭和41)	112.5×145.4	第9回日展	
60 古城の丘	1967 (昭和42)	112.3×145.0	第33回東光展	
61 仔牛を荷う男の像	1967 (昭和42)	130.6×97.2	第33回東光展	
62 古城の橋	1967 (昭和42)	145.0×102.0	第10回日展	
63 娘の婚礼	1968 (昭和43)	145.5×112.0	第34回東光展	
64 K子の座像	1968 (昭和43)	145.2×96.6	第11回日展	佐賀県立美術館
65 コートの娘	1969 (昭和44)	145.3×97.0	第35回東光展	
66 初秋の女	1969 (昭和44)	145.3×97.0	改組第1回日展	
67 午後の桜島	1970 (昭和45)	145.2×97.2	第36回東光展	佐賀県立美術館
68 桜島		100.2×80.3		
69 平戸	1970 (昭和45)	145.3×112.5	第2回日展	長崎県立美術博物館
70 早春長崎	1971 (昭和46)	130.3×80.4	第37回東光展	佐賀相互銀行
71 港の丘	1971 (昭和46)	145.3×112.5	第3回日展	十八銀行
72 入江の聖堂	1972 (昭和47)	145.3×112.0	第4回日展	長崎市立福田小学校
73 港の町		145.5×112.0		佐賀県立美術館
74 突堤のある港の街	1973 (昭和48)	130.3×162.2	第5回日展	十八銀行
75 おらんだ坂	1974 (昭和49)	162.2×130.5	第6回日展	
76 おらんだ坂の家	1975 (昭和50)	162.2×112.0	第41回東光展	長崎県立美術博物館
77 オランダ坂の家	1975 (昭和50)	162.2×145.6	第7回日展	長崎県立美術博物館
78 新緑オランダ坂の家	1976 (昭和51)	162.0×130.0	第42回東光展	佐賀県立美術館
79 熔岩桜島	1976 (昭和51)	145.4×112.0	第8回日展	
80 熔岩地帯	1977 (昭和52)	162.0×130.0	第43回東光展	
81 熔岩桜島	1977 (昭和52)	162.0×112.0	第9回日展	長崎県立美術博物館
82 桜島山	1978 (昭和53)	162.0×112.0	第44回東光展	佐賀県立美術館
83 花咲く熔岩帯	1978 (昭和53)	162.0×130.4	第10回日展 (会員賞)	長崎県立美術博物館
84 火の山の道	1978 (昭和53)	130.3×89.6	日展評議員会員展	佐賀新聞社
85 岩谷の早春	1979 (昭和54)	145.3×112.0	第45回東光展	佐賀県立美術館
86 火の山の道	1979 (昭和54)	130.2×193.9	第11回日展	
87 噴煙桜島	1980 (昭和55)	130.2×162.0	第46回東光展	
88 噴煙の桜島	1980 (昭和55)	130.0×162.0	第12回日展	佐賀県立美術館
89 噴煙と熔岩	1981 (昭和56)	162.0×130.3	第13回日展	
90 桜島	1982 (昭和57)	130.7×162.2	第14回日展	長島文化財団
91 桜島晩夏	1983 (昭和58)	162.0×130.3	第15回日展	
92 黒神雨後	1984 (昭和59)	162.0×130.3	50周年記念東光展	
93 噴煙と熔岩の道	1984 (昭和59)	130.2×162.0	第16回日展	
94 噴煙と熔岩 (未完成)		162.0×130.0		
95 照る日曇る日	1985 (昭和60)	130.0×162.0	第51回東光展	
96 岬の午後	1985 (昭和60)	161.8×130.2	第17回日展	
97 干潟の有明海	1985 (昭和60)	65.3×80.3	第18回日展	佐賀県警察本部

作品名	制作年	寸法(cm) たて×よこ	材質	所蔵
油彩画(小品)				
1 夕日		22.4×16.3	油彩・板	
2 ざくろ		16.0×22.4	油彩・カンバス	
3 静物(花)		24.3×33.0	油彩・板	
4 菊(あざみ)	1935(昭和10)頃	52.8×45.2	油彩・カンバス	
5 ツバキ		45.1×52.8	油彩・カンバス	
6 アマリリス	1939(昭和14)	21.5×27.3	油彩・板	
7 アネモネ	1946(昭和21)	52.9×45.6	油彩・カンバス	佐賀銀行
8 日山消司像	1948(昭和23)	52.7×40.9	油彩・カンバス	
9 小城公園	1951(昭和26)頃	24.3×32.8	油彩・カンバスボード	
10 風景(麓)	1952(昭和27)	21.6×27.0	油彩・板	
11 雪の東校舎	1959(昭和34)	14.0×18.2	油彩・カンバスボード	
12 百合	1959(昭和34)	22.0×27.2	油彩・カンバスボード	佐賀県立小城高等学校
13 セーヌの滞船	1964(昭和39)	38.0×45.4	油彩・カンバス	
14 旧いバリ	1964(昭和39)	38.3×45.5	油彩・カンバス	長崎市立福田小学校
15 古い通り	1964(昭和39)	45.5×38.0	油彩・カンバス	
16 シテ通り	1964(昭和39)	45.6×53.0	油彩・カンバス	
17 パンテオン裏通り	1965(昭和40)	45.7×53.3	油彩・カンバス	佐賀県立小城高等学校
18 戸上信文像	1968(昭和43)	60.5×50.2	油彩・カンバス	
19 梅林	1971(昭和46)頃	41.0×31.8	油彩・カンバス	
20 楠	1971(昭和46)	31.7×40.9	油彩・カンバス	
21 くと造りの家	1971(昭和46)	40.9×31.7	油彩・カンバス	
22 雪の天山	1972(昭和47)	37.7×45.5	油彩・カンバス	
23 雪の天山	1972(昭和47)	24.0×33.0	水彩・コンテ・紙	
24 中央公園	1974(昭和49)頃	37.8×45.4	油彩・カンバス	
25 双樹(中央公園)	1974(昭和49)頃	45.7×38.0	油彩・カンバス	
26 桜島	1974(昭和49)	31.8×41.0	油彩・カンバス	
27 桜島	1974(昭和49)頃	14.3×18.3	油彩・カンバス	
28 有明の日の出	1974(昭和49)	37.7×45.3	油彩・カンバス	
29 有明海の日の出	1974(昭和49)頃	37.8×45.6	油彩・カンバス	
30 有明海の日の出	1975(昭和50)	60.0×72.5	油彩・カンバス	佐賀銀行
31 がくあじさい		31.7×40.9	油彩・カンバス	
32 がくの花	1978(昭和53)	31.8×40.8	油彩・カンバス	佐賀銀行
33 がくあじさい		45.8×38.1	油彩・カンバス	
34 パンジー		16.0×22.8	油彩・カンバス	
下絵				
1 静物(花)	1978(昭和53)頃	45.5×53.0	油彩・カンバス	
2 桜島		38.1×45.4	油彩・カンバス	
3 黒神雨後	1984(昭和59)	45.5×38.0	油彩・カンバス	
4 岬の午後(A)	1985(昭和60)	61.6×45.5	油彩・カンバス	
5 岬の午後(B)	1985(昭和60)	56.5×45.5	油彩・カンバス	

作品名	制作年	寸法(cm) たて×よこ	材質	所蔵
従軍スケッチ				
1 銃を持つ兵隊	1944-45(昭和19-20)	29.0×19.0	水彩・エンピツ・紙	
2 タバコを持つ兵隊	〃	28.7×19.0	水彩・エンピツ・紙	
3 手紙を読む兵隊	〃	28.8×18.8	水彩・エンピツ・紙	
4 馬と兵隊	〃	17.4×25.4	水彩・紙	
5 旋盤工	〃	21.2×29.7	水彩・エンピツ・紙	
6 旋盤工	〃	29.0×20.8	水彩・エンピツ・紙	
7 駅舎にて	〃	22.4×27.8	水彩・ペン・紙	
8 匍匐訓練	〃	20.8×29.6	水彩・エンピツ・紙	
9 カッター訓練	〃	20.9×29.6	エンピツ・紙	
10 海辺	〃	20.0×28.3	水彩・紙	
滞欧中のスケッチ				
1 バリにて	1964-65(昭和39-40)	21.7×26.5	水彩・エンピツ・紙	
2 セーヌの滞船	〃	26.8×21.7	パステル・ペン・コンテ・紙	
3 牛を圧えようとするニケ	〃	27.5×24.3	水彩・ペン・紙	
4 カイロの塔	〃	24.4×18.0	ペン・紙	
5 仔牛を荷う男の像	〃	33.5×24.4	水彩・ペン・紙	
6 アクロポリス美術館にて	〃	31.7×41.3	水彩・パステル・ペン・紙	
7 トレド	〃	32.7×41.0	パステル・ペン・紙	
8 トレドにて	〃	33.2×25.5	水彩・ペン・紙	
色紙・掛幅				
1 虎図	1942(昭和17)頃		絹本墨画	
2 雪の朝			水彩	
3 松葉ぼたん	1955(昭和30)		水彩	
4 木の葉			水彩	
5 梅			水彩・墨	
6 スミレ			水彩	
7 胡蝶蘭			水彩	
8 がくの花			水彩・墨	
9 がくあじさい			水彩	
10 薔薇	1973(昭和48)		水彩	
11 桜島夕照			水彩	
12 星巖寺五百羅漢図	1935(昭和10)頃	134.7×32.5	紙本墨画淡彩	
絵付				
1 染付徳利：家族の像		高さ12.4	磁器	
2 染付徳利：人形	1952(昭和27)	高さ12.8	磁器	
3 染付皿：婦人像	1952(昭和27)	口径23.7	磁器	
4 染付皿：婦人像	1959(昭和34)	口径9.8	磁器	
5 染付皿：草花文		口径12.1	磁器	
6 染付皿：烏瓜図		口径14.0×14.2	磁器	
7 染付皿：烏瓜図		口径14.2×14	磁器	

4. 企画展ならびにその他の展覧会 昭和62年度

展覧会名	会期	主催
第71回二科会展	6/6～6/14	二科会、佐賀新聞社、佐賀県立美術館
第70回佐賀美術協会展	6/20～6/28	佐賀美術協会、佐賀県立美術館
第12回九州藍筍会展	7/1～7/5	九州藍筍会
人間国宝中里無庵とその周辺展	7/4～7/19	読売新聞西部本社、佐賀県立美術館
第12回佐賀県書作家協会展	7/8～7/12	佐賀県書作家協会、佐賀県立美術館
第4回佐賀県写真協会展	7/15～7/19	佐賀県写真協会、佐賀県立美術館
第18回独立C・S展	7/22～7/26	佐賀独立CS
第53回東光展	7/28～8/2	東光会、佐賀新聞社、佐賀県立美術館
第15回七夕書道展	8/5～8/9	佐賀県書道教育連盟、佐賀県立美術館
吉武研司展	8/11～8/16	吉武研司
第8回九州新工芸展 第7回日韓文化交流展	8/18～8/23	九州新工芸家連盟、佐賀新聞社、佐賀県立美術館
バルビゾン派をめぐる画家たち展	8/27～9/27	西日本新聞社、佐賀県立美術館
美術館企画石本秀雄展	10/2～10/23	佐賀県立美術館
第37回佐賀県美術展	10/31～11/8	佐賀県、佐賀県教育委員会 佐賀県立美術館、佐賀県立博物館
第11回佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展	11/15～11/23	佐賀県教育委員会、佐賀県高等学校美術連盟ほか
第38回佐賀県学童美術展	11/25～11/29	佐賀県造形教育研究会、佐賀県立美術館
第8回佐賀新聞学生書道展	12/2～12/6	佐賀新聞社
第29回佐賀大学教育学部 美術工芸科総合展	12/9～12/13	佐賀大学教育学部、佐賀県立美術館
第2回ハチロク展	12/16～12/20	ハチロク会
富永将暉仕事展	1/6～1/10	富永将暉
第10回さが行動美術展	1/19～1/24	さが行動美術協会
第2回佐賀大学書道部 OB合同展	1/27～1/31	佐賀大学学生書道研究会
北高美術部OB木・木合同展	2/9～2/14	北高美術部OBグループ 木・木
第37回佐賀大学教育学部 美術工芸科卒業制作展	2/17～2/21	佐賀大学教育学部、佐賀県立美術館
第19回九州芸術祭総合美術展	2/24～3/3	佐賀県教育庁文化課
個展の集合 ボックス30展	3/16～3/21	中島聡郎ほか
第10回二紀佐賀グループ展	3/23～3/27	二紀会佐賀グループ

展 示 概 要	会 場
二科会巡回・佐賀支部会員展、絵画、デザイン、写真	美術館 2・3・4号
佐賀美術協会会員・会友の作品、日本画、洋画、彫刻、工芸	美術館 2・3・4号他
かな書道	美術館 4号
唐津焼の叩き技法で人間国宝となった故人の陶芸回顧展	美術館 2・3号
会員作品ならびに一般公募入選作品による書道展	美術館 4号
各グループの会員作品が一堂に競う写真展	美術館 4号他
独立美術協会の佐賀支部会員による絵画展	美術館 4号
東光会巡回・佐賀支部緑光会の絵画、親子スケッチ会	美術館 2・3・4号
幼稚園児・小学生・中学生と高校生・一般の部の書作	美術館 4号
東京で活動する佐賀県出身の若手独立美術協会員の油絵個展	美術館 4号
会員・会友ならびに公募による陶芸・染織など、デザインをくわえた韓国工芸家との合同展	美術館 2・3・4号
自然主義の巨匠ミレーとその創作の場バルビゾンを取りまく画家達の作品	美術館 2・3・4号
佐賀県美術界の重鎮、美術教育者としても活躍した故人の回顧展	美術館 2・3・4号
県下の日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真・デザインから入選作約450点	美術館 1・2・3・4号他
高校生の美術・書の作品が県展規模で競いあう	美術館 1・2・3・4号他
県内の小・中学生が一年の美術教育の成果を発表する	美術館 4号
県内の小・中・高校生の書道作品から入選作約200点	美術館 4号
美術工芸科学生達が洋画・日本画・工芸・デザインの作品を発表	美術館 4号他
美術の会派を越えた自由な創作活動を紹介	美術館 4号
佐賀県出身の現代書家、あらゆる書の表現に挑戦	美術館 4号
行動美術を活動の場とする佐賀の作家達による絵画・彫塑	美術館 4号
佐賀大学生および卒業生による書作発表の場	美術館 4号
佐賀北高美術部OBたちの絵画など約40点	美術館 4号
美術工芸科卒業制作の日本画・洋画・工芸・デザイン約100点	美術館 4号他
九州各県の県展入賞作を一堂に紹介する現代絵画展	美術館 4号
油絵・彫刻・工芸で創作活動をする作家達の集まり	美術館 4号
会員の油絵・彫塑など約35点	美術館 4号

5. 美術館観覧状況調べ 昭和62年度

展 覧 会 名	個 人			団 体		
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小
第71回 二 科 会 展	4,346	422	1,389	30	749	161
第70回 佐 賀 美 術 協 会 展	2,196	304	328			386
第12回 九 州 藍 筍 会 展	547	6	11			
人間国宝 中里無庵とその周辺展	1,516	45		3	287	
第12回 佐 賀 県 書 作 家 協 会 展	1,368	202	34		475	42
第4回 佐 賀 県 写 真 協 会 展	982	13	46			40
第18回 独 立 C ・ S 展	534	40	113			
第53回 東 光 展	1,350	563	499			
第15回 七 夕 書 道 展	580	39	588			
吉 武 研 司 展	700	47	195			
第8回 九 州 新 工 芸 展 第7回 日 韓 文 化 交 流 展	1,321	48	178			
バルビゾン派をめぐる画家たち展	18,684	2,782	3,466	139	554	1,688
美術館企画 石本秀雄展	2,936	223	337	47	639	911
第37回 佐 賀 県 美 術 展	4,331	300	711	460	1,099	415
第11回 佐賀県高等学校芸術祭美術・書道展	1,091	548	164	51	576	75
第38回 佐 賀 県 学 童 美 術 展	1,401	62	1,003	18	39	1,283
第8回 佐賀新聞学生書道展	293	20	192			
第29回 佐賀大学教育学部美術工芸科総合展	417	310	144			83
第2回 ハ ナ ロ ク 展	882	23	57	1		121
富 永 将 暉 仕 事 展	481	28	96			
第10回 さ が 行 動 美 術 展	426	26	49	25		82
第2回 佐賀大学書道部OB合同展	179	39	18			
北高美術部OB木・木合同展	322	9	19			
第37回 佐賀大学教育学部美術工芸科 卒 業 制 作 展	653	226	260	3	30	80
第19回 九州芸術祭総合美術展	317	8	21	23	32	
個展の集合 ボックス30展	451	53	55			42
第10回 二紀佐賀グループ展	379	24	48			
計	48,683	6,410	10,021	800	4,480	5,409

観覧料免除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	会期期間
大人	大・高	中・小						
			3,135		10,232	8	1,279	6/6~6/14
					3,214	8	401	6/20~6/28
					564	5	112	7/1~7/5
			1,907		3,758	14	268	7/4~7/19
					2,121	5	424	7/8~7/12
					1,081	5	216	7/15~7/19
					687	5	137	7/22~7/26
			1,946		4,358	6	726	7/28~8/2
					1,207	5	241	8/5~8/9
					942	6	157	8/11~8/16
					1,547	6	257	8/18~8/23
			3,263		30,576	28	1,092	8/27~9/27
			874		5,967	19	314	10/2~10/23
			1,908		9,224	8	1,153	10/31~11/8
					2,505	8	313	11/15~11/23
					3,806	5	761	11/25~11/29
					505	5	101	12/2~12/6
					954	5	190	12/9~12/13
					1,084	5	216	12/16~12/20
					605	5	121	1/6~1/10
					608	6	101	1/19~1/24
			7		243	5	48	1/27~1/31
					350	6	58	2/9~2/14
					1,252	5	250	2/17~2/21
			170		571	8	71	2/24~3/3
			14		615	6	102	3/16~3/21
					451	5	90	3/23~3/27
			13,224		89,027	202	440	

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

館報・年報・調査研究書 博物館と合同で刊行する。8ページ・年4回・各号 1,000部。

図録 「石本秀雄展」の項を参照のこと。

(2) 実技講座：石膏デッサン教室

講師 牛塚和男氏 佐賀大学教育学部講師

会期 昭和62年7月4日～8月1日
毎週土曜日、2時間、5回。

会場 佐賀県立美術館研修室

受講者 30名

7. 資料調査

昭和62年5月26日(火)

佐賀市内の個人蔵、山口長男作「量」の現状調査
学芸員松本誠一

昭和62年6月2日(火)

佐賀市北島常一氏所蔵資料調査
陶磁器類多数のなかから、鈴木照次作和紙型絵染の表紙原画を寄贈いただく。

副館長高島忠平・学芸員宮原香苗

8. ホール・画廊・研修室催しもの

美術館ホール利用状況

月別	利用団体数	延入場者数	音 楽	演 劇	洋舞・邦舞	映 写 会	そ の 他
4	9	2,734人	7	1			1
5	9	3,444	4		1		4
6	14	4,813	7			1	6
7	11	5,517	6	1		1	3
8	20	4,351	13	2	1	1	3
9	12	3,435	9		1		2
10	20	6,117	8	3	4	1	4
11	17	4,641	6	1	1	3	6
12	13	4,883	9		2	1	1
1	14	7,120	10	1	1		2
2	17	7,993	9	1	1	1	5
3	22	5,406	15	1	1	1	4
計	178	60,454	103	11	13	10	41

画廊・研修室利用状況

月別	展 覧 会			そ の 他
	利用団体数	延会期日数	入 場 者 数	
4	3	15	1,864	1. 講演会 2回 2. 研究会 6回(老人大学・デッサン教室) 3. 展覧会準備・控室 46回 4. ホール催物控室 12回
5	4	24	6,017	
6	2	10	475	
7	3	13	1,712	
8	3	12	997	
9	4	20	5,285	
10	2	8	1,031	
11	3	14	825	
12	3	16	1,214	
1	4	22	2,910	
2	4	23	4,104	
3	5	24	1,860	
計	40	201	28,294	計 66回

資料の概要 —昭和62年度・美術館—

1. 購入資料

作家名・	作品名	制作年	数量	規 格	備 考
美術資料					
石 本 秀 雄	火鉢による女・冬の女	1934	1	91.0×72.6(30F)	油彩・キャンバス
石 本 秀 雄	藤椅子に凭る女	1936	1	194.2×130.5(120F)	油彩・キャンバス
岡 田 三郎助	風 景	1919	1	53.3×33.5(10M)	油彩・キャンバス
島 内 き み	夜の静物	1940	1	116.4×72.7(50M)	油彩・キャンバス
島 内 き み	古い壺の枯草	1986	1	60.5×91.0(30M)	油彩・キャンバス
鍋 島 紀 雄	釣り人	—	1	63.6×48.0	岩絵具・紙
鍋 島 紀 雄	赤い船	1965	1	67.9×45.2	岩絵具・紙
牧 野 宗 則	幸せな一日	1986	1	22.4×34.8	多色版画
牧 野 宗 則	歓びあふれて	1986	1	22.4×34.8	多色版画
牧 野 宗 則	久 遠	1986	1	49.3×35.3	単色版画
牧 野 宗 則	夢明かり	1986	1	49.0×35.4	多色版画
牧 野 宗 則	限りなく	1986	1	34.7×59.6	多色版画
工芸資料					
鈴 田 照 次	型絵染着物 芋葉文	1956	1	衿64.5×着丈153.0	絹紬地
鈴 田 照 次	木版摺更紗着物 松竹梅文	1975	1	衿65.5×着丈169.5	絹縹子地

2. 寄贈資料

作家名・	作品名	制作年	数量	規 格	備 考
鍋 島 紀 雄	山空碧水流	1962	1	21.5×18.4	鍋島登代 大阪府羽曳野市はびきの4-18-8 岩絵具・紙
鈴 田 照 次	和紙型絵染面浮立	1973	1	22.0×21.2	北島常一 佐賀市西魚町85 染料・紙・ロータリー・クラブ「二十年の歩み」表紙原画
鈴 田 照 次	表紙デザイン		1件 3冊	21.2×15.3	北島常一 佐賀市西魚町85 佐賀ロータリー・クラブ記念誌

3. 管理換資料

作家名・	作品名	制作年	数量	規 格	備 考
脇 山 修	愁 い	1987	1	25.0×50.0	管理換、石膏・大理石
西 澤 秀 行	窓から	1987	1	162.0×130.6	管理換、岩絵具・紙
宮 崎 宏一郎	鷄 <small>い</small>	1987	1	162.0×130.4	管理換、油彩・キャンバス
高 尾 浩 正	陶淵明の詩	1987	1	240.0×60.0	管理換、墨・紙
島 内 義 則	子等を忘れたオルガン	1987	1	64.0×53.0	管理換、写真

4. 資料の貸出状況

作家名・作品名	貸出先・目的	貸出・返納
藤島武二 裸婦 藤島武二 風景 藤島武二 台湾娘	京都市美術館・京都新聞社 「藤島武二展」	62. 5. 20～7. 8
小川泰彦 染色屏風 有明 小川泰彦 染色額面 有明回帰	小川泰彦 第3回国際イメージ学会発表のため 会場・福岡市サンパレス	62. 7. 2～7. 7
岡田三郎助 少年 岡田三郎助 老人像	板橋区立美術館 「明治洋画壇の巨匠たち」展	62. 9. 9～10. 25
百武兼行 タンバリンを持つ少女(寄託) 百武兼行 バーナード城下絵 岡田三郎助 花野(寄託) 岡田三郎助 冠をつけた女の像 黒田清輝 画室内	いわき市立美術館 「日本洋画の出発展 ——初期洋画から歴史画へ——」展	62. 10. 3～11. 21
黒田清輝 小代為重像 岡田三郎助 西洋婦人像 小代為重 少女像 小代為重 テームズ河畔 久米桂一郎 加茂川の新緑 久米桂一郎 残暈(下絵)	久米美術館 「久米桂一郎と白馬会の友たち」展	62. 9. 25～12. 8
百武兼行 マンドリンを持つ少女 (鍋島報效会寄託) 岡田三郎助 伊豆山 岡田三郎助 若き娘の顔(佐賀大学寄託) 山本芳翠 帆船 青木繁 朝日(黄城会寄託)	大分県立芸術会館 「日本近代洋画の歩み」展	62. 10. 22～12. 10
石田英一 鍛金 葡萄栗鼠像	東京都台東区・日本経済新聞社 「東京芸術大学百周年記念展」 会場：東京 松坂屋上野店	62. 10. 16～11. 11

佐賀県立博物館・美術館協議会

委員名簿

区分	氏名	役(現職名)職	住所
社会学校教育関係者	野方辰美	佐賀県公民館連合会副会長	〒846 多久市東多久町大字別府6416
	田中 勲	佐賀県高等学校長協会代表	〒848 伊万里市立花町西円
	平安寺 扶	佐賀県小・中学校長会代表	〒845-23 小城郡小城町松尾3965
学識経験者	佐藤久子	佐賀県婦人連絡協議会会長	〒849-41 西松浦郡西有田町山谷乙231
	大塚 巖	佐賀県文化団体協議会会長	〒840 佐賀市本庄町本庄宮前1137-23
	栗山重司	佐賀県理科教育振興会代表	〒840-03 佐賀市金立町薬師丸981
	三好不二雄	佐賀大学名誉教授	〒840 佐賀市赤松町11-11
	深川善次	佐賀大学教育学部教授	〒840-23 佐賀郡川副町南里557-3
	平田 寛	九州大学文学部教授	〒811-34 宗像市日の里5-3-31
	吉田進一	佐賀美術協会理事長 九州龍谷短期大学教授	〒840-22 佐賀郡川副町犬井道47
	岡崎 敬	九州大学名誉教授	〒813 福岡市東区香住ヶ丘3-20-15
	米倉利昭	佐賀大学教育学部教授	〒840 佐賀市本庄町本庄528-1
	富崎一己	佐賀県議会議員	〒840-01 佐賀市鍋島町鍋島1822
	吉野徳親	佐賀新聞社編集局長	〒840 佐賀市北川副町光法1499-16
計	14名	任期：昭和61. 7. 25～昭和63. 7. 24	

佐賀県立博物館・美術館協議会開催状況

昭和62年7月17日

- 議題 (1)昭和62年度事業について
(2)昭和62年度予算案について
(3)その他

昭和63年3月19日

- 議題 (1)昭和63年度事業計画について
(2)昭和63年度予算について
(3)その他

博物館・美術館職員名簿（昭和63. 4. 1現在）

課名	職名	氏名	課名	職名	氏名		
	館長	出和人	学 芸 課	学芸課長	小宮陸之		
	副館長 (課長事務取扱)	木下一義		資料 係	資料係長	田中裕	
	副館長	尾形善郎			学芸員	松本誠一	
総 務 課	庶 務 管 理 係	庶務管理係長			赤坂一憲	学芸員	蒲原宏行
		主査			葛見稔	学芸員	大隈博文
		主査			古川宣明	非常勤嘱託	浜野四郎
		主査		楠美智子	企画普及係	専門員 (係長事務取扱)	木下巧
		主事		中島恭助		主 (学芸員)	宮原香苗
		主事		石井康芳		学芸員	福井尚寿
		事務員		坂井卓次		学芸員	山崎和文
			事務員	小石武彦	計 23名		
			技術員	戸川内匠			
			非常勤嘱託	真子昭作			

佐賀県立博物館 年報 第18号
佐賀県立美術館

発行年月日 昭和 63 年 12 月 1 日

編集・発行 〒840 佐賀市内1-15-23
Tel 0952-24-3947

佐賀県立博物館
佐賀県立美術館

印刷 有限会社 大同印刷